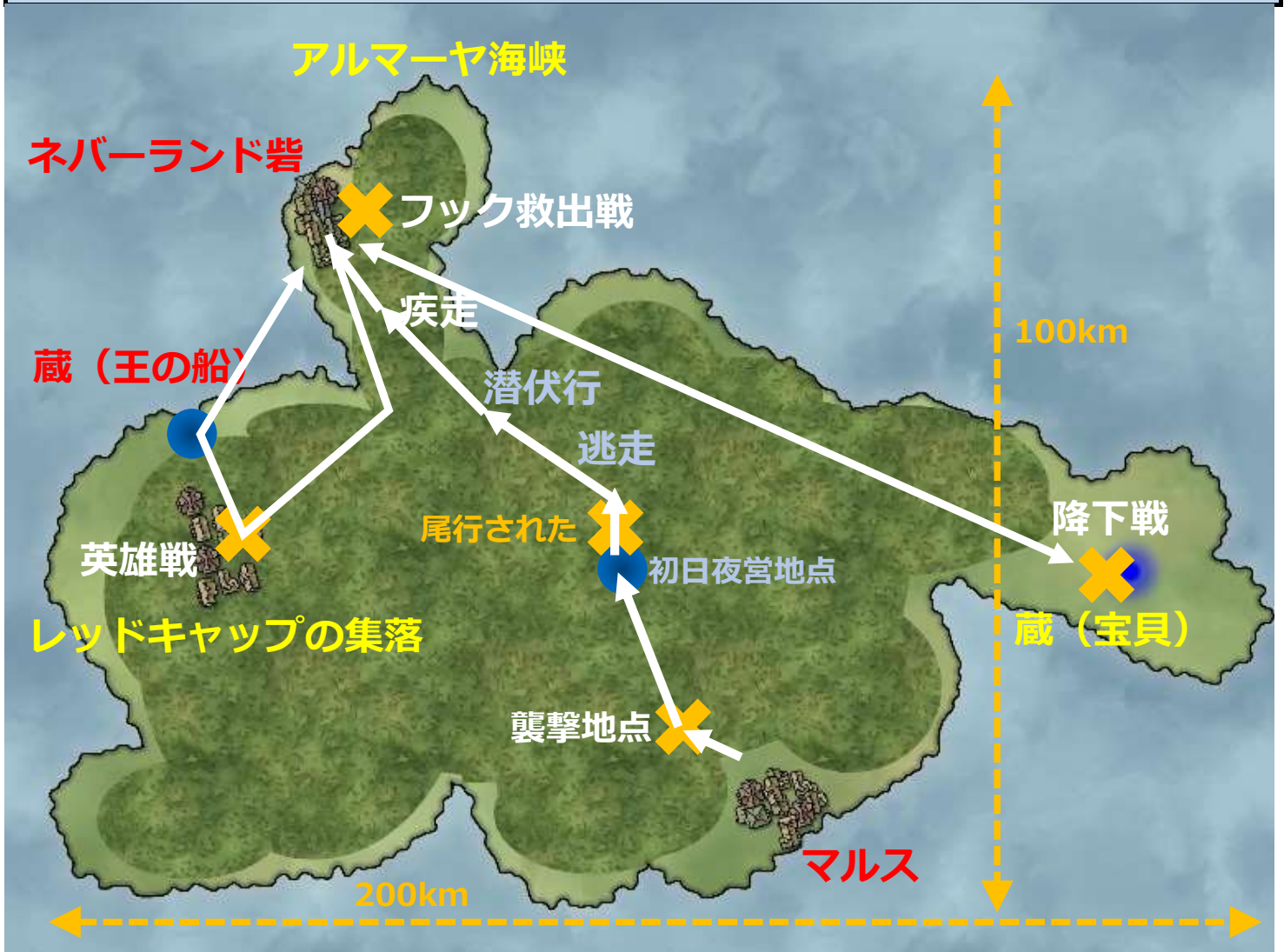


## 『密林の英雄』 情報まとめ



## 概要

GS第19話 第三作戦「密林の英雄」

依頼人：ゴブリン帝国皇帝クリムゾン・アイ

推奨レベル：7以上(三次職、転生職はレベル5でも参加可)

報酬：一人200000セレン (参加報酬)

舞台：アルマーヤ海峡

必須なスキル、装備：レンジャー、山林戦闘経験、ファイター、プリースト、ドルイド、シーフ等基本職全て

概要：

アルマーヤを支配する邪龍モトの討伐を依頼する。

肉と皮の無いドラゴンロードの討伐はゴブリン帝国の悲願である。

人間のお前達にとってはさほどモチベーションの上がない話かもしれないが、頼む。

相応の報酬については用意させてもらったつもりだ。

アルマーヤ海峡の途中にあるモトの居城周辺の大森林は、殺戮の妖精レッドキャップの住処でもある。

レッドキャップは人間、一際人型をしているすべての存在を憎む邪悪な妖精族だ。

そのテリトリーを突破しなければモトの居城にたどり着くことはできない。

恐ろしい森林での殺し合いが起こると想定して向かってほしい。

もし、まだ全滅していないならば、元々アルマーヤに存在していた人間の国が大森林のどこかに残っているはずだ。  
無事に接触出来れば助力を願えるかもしれない。

達成目標：骨竜帝モトの討伐

モトによる呪いの解除

努力目標：異世界文書、異世界文献、及び異世界技術の入手

アルマーヤ王朝の復興

#### ○特記事項

1. レッドキャップは交渉自体を行わない。
2. レッドキャップに殺された場合、肉体を捕食されるので死体無しの状態が確定する。
3. 広大な森林での行軍は常に死と隣り合わせである。
4. レンジャー、スカウトによる斥候、ルート確保が命綱と知れ。
5. 夜は完全に魔法の闇に包まれ、暗視、赤外線視力等の手段が通用しなくなる。
6. モトの討伐の為には特殊な呪法が必要である。
7. レッドキャップ討伐を悲願にする人間の集落がどこかに存在する。

## 注意点

セッションは基本的に平日の21～24時に開催する。

土曜日・日曜日のセッションは休みとする。

3月中はGMが留守にする日が不規則的に発生するため、平日でも休みになる場合がある。

GMやNPCに対しての発言は目立つ色をつけると見落とされにくくなります。

途中参加は3/12（金）までは可能。

## クリムゾン・アイとのブリーフィング

深海の蒼光 3/8 21:05～23:27

ゴブリン帝国の首都マルスは城郭都市で、北の森に通じる門は通行者の準備ができたときに一度だけ開く。

一度門を通るとマルスに戻ることはできない。毎日午前八時にのみ開門要請をすることができる。テレポートなどでマルスに戻った場合でも、城門を開けてもらえるのは午前八時のみ。

クリムゾン・アイは骨竜帝モトと誓約を交わっていてモトに逆らうことができないため、一行と行動を共にすることができない。

## レッドキャップについて

レッドキャップは上半身が人、下半身が二足歩行の鹿のようにになっている。森の中で不自然な蹄の音を聞いたなら、それがレッドキャップが近くにいます。

レッドキャップはただの妖魔ではない。人間以上に賢く戦術に長けている。森の中で灯りを見つければ当たり前のように集まってくる。

レッドキャップは音に敏感で、夜に喋ったり音を出すのは危険。獣の荒い呼吸でも聞き分けることができる。

レッドキャップにとって人間は理知を知らない獲物で、捕食対象に過ぎない。戦うべき敵だとも見なされていない。

北方の森にいるレッドキャップは、ゴ布林帝国のゴ布林が他所のゴ布林と違うのと同様に、骨竜帝モトから叡智を与えられていて、生態や行動は他所のレッドキャップとは大きく違う。

獣道に沿って移動するような愚行を冒さない限り、昼間に後れを取ることはないだろう。

人間をほぼ食い尽くしたレッドキャップは次にゴ布林を食い始めた。それがクリムゾン・アイが叡智を求めて海峡を渡る動機となった。ゴ布林帝国は城壁を築いてレッドキャップを近寄せなくするのが精一杯。

レッド・キャップ(進化) レベル11 巨人族、妖精族であるレッドキャップがモトによって進化を遂げた姿。非常に高い知能を得た上で軍事行動をとる。オリジナルのレッドキャップに比べて体は小さくなり、体長は1.6mほどで人間と変わらず、戦闘力も減退しているものの、通常単独で行動するレッドキャップと違い、10~20体単位で軍事行動をとる。人間やゴ布林、亜人を捕食する習性は変わっておらず、捕食対象に対しては欲情しない。牡の個体は老爺の仮面を被り、牝の個体は非常に美しい容姿を持った上でヴェールを被っているようだ。

Lv11 HP50/50 回避22 防御25 抵抗22 受動防御4以下 不眠 移動に高低差無視 移動阻害無効 敏捷32

### 北方の森について

北方の森の夜は魔法の明かりでのみ照らすことができる。松明や魔法のかかっていないランタンでは役に立たない。

魔法の闇を見通す手段があれば北方の森の夜でも行動できるだろう。

昼間は至って普通の森で、迷いさえしなければ2~3日で抜けることができるだろう。

優秀なレンジャーがいるなら斥候を行いつつ前進することを勧める。

いま季節は冬場明けで木が乾いているから、火の使用には気をつけたほうが良い。

### アルマーヤの人間について

レッドキャップに滅ぼされてゴ布林帝国に国を奪われた人間たちは、ゴ布林帝国と共存することはできないだろう。

骨竜帝モトが最初に知恵を与えたのがレッドキャップであり、それにより30年ほど前にアルマーヤの人間の王国は滅ぼされ、人間の多くはレッドキャップに喰われた。

現在は生き残りを集めて北方に城塞を築いているようだ。

30年前とは世代が替わっているはずだが、人間たちはレッドキャップとゴ布林を駆逐したくて仕方がないだろう。人間の国が再興されればゴ布林帝国と戦争になるのは避けられないだろう。

人間であり骨竜帝モトを討伐しに行くホオヅキの冒険者なら、ある程度は友好的に接してくれるかもしれない。

ゴ布林帝国としては復興するかどうか分からないアルマーヤの人間たちよりもヴィステージポルトとの外交のほうが先決なようだ。

ゴ布林やレッドキャップは骨竜帝モトの加護を受けているわけではないので、もしモトを倒した場合でもゴ布林やレッドキャップが現状から変化することはないだろう。

アルマーヤ海峡に行くのに北方の森を避けて船で迂回しようとすると、今の季節は流氷によって船体に穴が開いてしまう。流氷が無くなるのを待てば5ヶ月も経過する。

金属鎧を着ていると音が鳴る。今回は指揮者を決めて行動したほうが良いだろう。

一行はリーダーをセフィとして行動することになり、暫定的に隊列を決めた。  
 【前衛：マール・アグリッパ・ディル（リオ）】 【中衛：ミレイユ・ノーウェン・ソニア】 【後衛：マサヨシ・セフィ（フォルトゥナ）】

時刻は午前八時。城壁の門を通り、マルスの外に出た。以降は【テレポート】で帰還した場合を含めて午前八時でないと城門は開かない。城門の音が大きく響いた。昼間の森は至ってのどかな普通の森に見える。鹿がいるのが見えた。

レベル8以上のレンジャーは森林行軍の経験が有り、ひらめき判定をすることで、森林での振る舞い方を知ることができる。

**レンジャー教本より**

レベル3レンジャー	偵察隊、またバックアップの本隊の二手に分かれて行動を行います。本隊と偵察隊は可能ならば20m以上離れた状態で、お互いを目視し、ハンドサインが出せる程度の距離をとります。
レベル4レンジャー	偵察隊は先行してルートを確認、クリアリングを行います。特に弓での狙撃が行えそうな場所を重点的につぶしていきます。この際には搜索スキル（レンジャーの【しらべる（屋外）】）を用います。
レベル5レンジャー	本隊は、偵察隊が襲われる事、また本隊への奇襲を想定し、飛び道具で援護をするのを前提に行動します。
レベル6レンジャー	偵察隊は、既に出てきている道や、獣道等、容易に「何かが通りそう」な場所を絶対にルート取りに使わないようにします。（罨、待ち伏せの危険が跳ね上がる為）
レベル7レンジャー	本隊は偵察隊のハンドサインを確認してから、偵察隊と全く同じルートを進みます。
レベル8レンジャー	偵察隊は、絶対に本隊から視認できない場所へ移動してはいけません。

千里眼と赤外線視力の併用は可能だが、障害物を透過して視ることはできないため、森の中では能力に制限がかかる。森の中では現在はコンパスを使うことができる。ただし、魔法的な干渉により環境が変わるとコンパスが役に立たなくなる場合がある。

改めて隊列を設定し直し、ハンドサインの合図を打ち合わせた。  
 【偵察隊：マール・アグリッパ・マサヨシ】 -20m- 【本隊中衛：ノーウェン・ミレイユ・ソニア】 【本隊後衛：ディル（リオ）・セフィ（フォルトゥナ）】

**ハンドサイン及び合図**

クリア	偵察	手招き
要注意	偵察	掌でストップのジェスチャー
緊急事態	偵察	しっしっのジェスチャー
有事！	共通	相手を四回突く

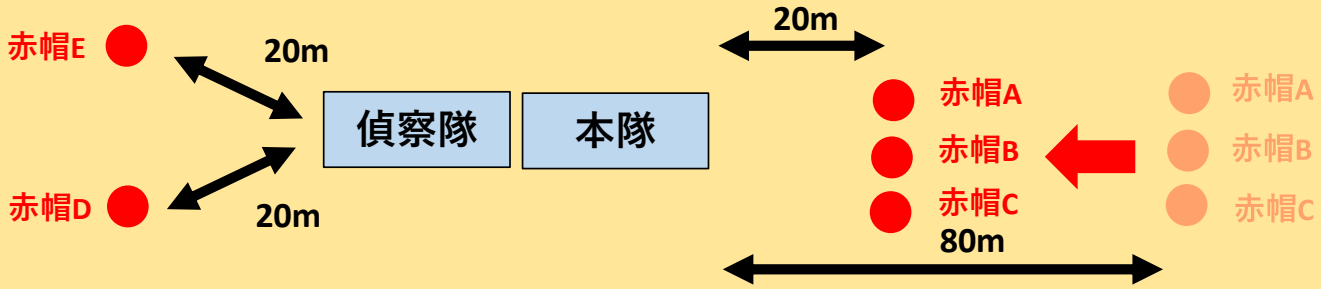
ノーウェンは白飛竜を放ち、ソニアはノーウェンの肩に乗って【サウンド・ミキサー】を発動してディルとリオとノーウェンの鎧が鳴る音を消し続けることになった。

マールとマサヨシとアグリッパで赤外線視力や千里眼も使いルート確保をしながら北西方向に進み始めた。少し進んだところでアグリッパがレッドキャップの足跡を発見。四本脚の鹿に偽装してあるが、人数は五人で明け方（6時間ほど前）についた足跡のようだった。マルスの北門からまだ1kmほどの距離。赤外線視力で周囲を警戒したがその場ではそれ以上何も見つからない。一行は北西方向に再び進み始めた。

## 襲撃

深海の蒼光 3/9 22:57~3/10 0:11

フォルトゥナとミレイユが後方から迫ってくる足音に気づいた。明らかに足跡を追跡されている。偵察隊と本隊の間で情報を共有した。マールはどこかでやり過ぎせないかを考えたがそれはできないと判断。後ろから迫っている敵の数は三体。足跡の数の五体と合わないことに偵察隊は他から襲撃がないかを警戒する。偵察隊が本隊と合流しようとしたときに偵察隊は前方から迫ってくる二体の存在に気づいた。五体のレッドキャップにタイミングを合わせて挟撃される体勢。前方のレッドキャップA・B・Cまで80m、後方のレッドキャップD・Eまで20m。接敵まで残り40秒。一行はレッドキャップたちをできるだけ引きつけるために最小限の準備だけをして待ち構える。ミレイユが【プラシード】で一行の発する音を意図的に不完全に消したところから戦闘が開始された。その時点で後方のレッドキャップA・B・Cは距離20mまで接近していた。



## レッドキャップとの最初の戦闘

深海の蒼光 3/10 21:13~22:41

### 1ターン目

【A・B・C】-20m-【ディル（ZOC）・リオ・セフィ・フォルトゥナ】【ノーウェン（ZOC）・ソニア（透明）・ルルカ・ミレイユ】【マサヨシ・アグリッパ（ZOC）・マール】-20m-【D（右）】【E（左）】

マサヨシが【土道覚悟】と【無念無想】。ディルとリオが【集中】。アグリッパは【炎帝舞踏】を舞い始め【ダークソード】を發動させる。ミレイユは【ハンティングモード】の体勢。

レッドキャップたちは敏捷32と素早い、偵察隊は三人とも敏捷36。しかし引きつけて同時に撃破するために偵察隊は三人とも行動を遅延した。レッドキャップA・B・Cは身体に施した迷彩を利用して木に隠れ、それぞれの確に魔術師のセフィとルルカとミレイユを吹き矢で狙ってきた。潜伏状態になった三人のレッドキャップは赤外線視力で見ないと距離5m以内に近づくまではターゲットングできない。吹き矢には毒が塗ってあり、回避と生命抵抗に失敗すると麻痺と1ターンにHPが5ずつ減少する。しかし、ディルが【マイティガード】を展開して全ての吹き矢を受け止め、全ての毒に抵抗してダメージを最小限にとどめた。赤外線視力でレッドキャップの位置を把握しているミレイユがセフィに潜伏しているレッドキャップA・B・Cの位置を指差して指示。セフィが【地獄のカード】を使用してレッドキャップA・B・Cを即死させた。その時点で行動遅延していたレッドキャップD・Eはまっすぐ撤退していった。

## 後処理と再出発

深海の蒼光 3/10 22:45~23:31

レッドキャップD・Eは北西方向にまっすぐに撤退していった。木々が邪魔で追撃はできなかった。マールは一行の進行方向を偽装できないかと検討したが時間がかかりすぎるためひとまずそれを諦めた。ミレイユはディルに護衛されながら倒したレッドキャップの死体を調べる。

### レッドキャップの死体

レッドキャップは三人とも綺麗に死んでいた。持っているのは独特な形をした短剣と吹き矢。吹き矢の矢は人間の骨を削り毛髪を羽代わりに使っている。防具はつけておらず、人間の皮をなめして縫製して作られた服を着ている。皮を剥くと褐色のエルフに似たような上半身をしていた。情報のとおり老爺の仮面をつけていた。水筒やロープなど最低限の装備は持っている。

短剣の鑑定には忍者かシーフが可能だが安定した作業台が必要。忍者の場合解析が早く済むだろう。

一行はレッドキャップの死体から老爺の仮面と短剣と吹き矢を回収。レッドキャップが捜索に来ることは確実なので、進行方向を北に変更して再出発した。

## 夜営

深海の蒼光 3/10 23:31~3/12 0:03

夕暮れまでは特に何も起きず、一行は夜営の場所を見繕った。周囲に敵の気配は見当たらない。マールは夜営と防御に最適な広い河原を見つけたが、最適すぎて狙われると判断して別の野営地を探す。すると河原から少し離れた獣道など一切ない場所が見つかった。テントを張ることはできないが寝袋を並べて眠ることくらいならできそうだ。スコープなどの道具があれば隠れやすくなるように塹壕を掘ることができそうだ。道具はないがディルがオリハルコンタワーシールドを使って掘る方法と【バペットストーン】で作るストーンゴーレムに穴を掘らせる方法が使いそうだと分かった。

ディルとリオとストーンゴーレム（バペット）で塹壕を掘り、マールとマサヨシとフォルトゥナとで塹壕のカモフラージュを行い、ルルカの使い魔とソニアで空中から周囲を警戒する。周囲の警戒では河原と夕日が見え敵らしき影は見えなかったが、おおよその現在位置を知ることができた。闇夜に備えて魔法のランタンに光を灯してシャッターをかけその上からマントでくるんで灯りがもれないようにした。

そうして日が沈むと、真っ赤な空の上に黒い点が現れてそれが地上に降りて広がっていき、1分足らずで周囲は暗闇に包まれてしまった。自分の掌さえ見ることができない。コモンマジックの【ダーク】と同じような闇だった。周囲には闇の星霊が満ちて光の星霊は一切いない。

一行は【マール、セフィ、ソニア】→【マサヨシ、ノーウェン、ルルカ】→【アグリッパ、ミレイユ、ディル】の順で夜番になり休息をとった。塹壕の中で息を潜め始めて約五時間後、マサヨシ・ノーウェン・ルルカが当番の時間にマサヨシが300mほど離れた位置に15~20人ほどの足音を感じ取った。音を立てずに全員を起こし、じっと音だけを聞いている。

一瞬視線が塹壕に向くような気配があったが、蹄の音は塹壕を通り過ぎていく。血の臭いが漂ってきて縄が軋むぎしぎしという音も聞こえる。細かく舌打ちをする『チッチッチッチ』という音も聞こえる。足音が通り過ぎた後に河原で何かを洗う音が聞こえる。やり過ごすことができたかと思ったが、その五時間後にまた蹄の足音が戻ってきた。塹壕の周囲を舌打ちの音が響き渡る。塹壕のカモフラージュが蹴り飛ばされカモフラージュが剥げてしまったが、蹴ったものは遠ざかっていった。その後も搜索が続いたが塹壕を掘っていたことが功を奏したらしい。一行は搜索をやり過ごすことができた。搜索の団は南の方向へと向かっていったようだ。

朝を迎えた一行は塹壕を埋め戻すには2時間を要することから塹壕の隠蔽は諦めて河原の方を見に行くことになった。

## 河原

深海の蒼光 3/12 0:10~3/12 22:02

河原には18歳ほどの全裸にされた女性の死体が、川の流れに晒されていた。死体が流れてしまわないように首に縄がかけられて岩場に固定。腹は捌かれて内臓の処理もされている。これは肉が腐らないようにする狩猟上の措置。あくまで食材として扱っているようだ。近くには穴を掘って何かを埋めた跡もあった。マサヨシが女性の遺体を写真記憶。セフィが遺髪だけ回収した。

## 北へ逃走

深海の蒼光 3/12 22:02~3/15 22:14

一行は北に向けて進み始める。出発した時点では正面に危険な存在は見当たらない。しかし、本隊側で100m以上離れた距離からつかず離れず尾行してきている存在に気づいた。遠くから遺体を見張られていたらしい。尾行は注意深く、姿は見えず気配だけが分かる程度で、姿を見られたり居場所を知られたりすることを警戒しているようだった。気配は二つで左右斜め後ろから互いに25m以上離れている。（地獄のカード対策か？）聞き耳をしてみたが足音が全く拾えなかった。

そのとき、ちょうど午前八時になったのか、はるか遠くからマルスの城門が開く音が聞こえてきた。

セフィは小石に【ダーク】をかけて設置したが、尾行を妨害することはできなかった。だんだん尾行の人数が増え、最初は二つだった気配も八つ以上になった。しかし距離を詰めてくることはない。つかず離れずの尾行が続く。セフィはこの追尾から脱出する方法を検討した。

自分たちよりも格上の相手、もしくは厄介な敵は、戦力を集中させて戦うのが定石。戦力を集めつつも存在をアピールし、つけて回るだけで相手に精神的な消耗を強いることが出来る。あとは確実に勝利できるタイミングで奇襲をしかけることで盤面を有利に運ぶことが出来る。これは特殊部隊やゲリラ兵が使う定石戦術。相手はプロの軍隊並みの知識を持っているようだ。追跡を撤くか、相手が奇襲のチャンスを得る前に、安全地帯（堅牢な要塞の類）に避難するしかない。

【テレポート】の目標になりそうなものも見当たらない。ルルカが使い魔を上空に放ったが鷹に狙われて撤退。【フルハウス】を重ねがけして耐久力を上げることはできない。ディルが反転して突撃を、ミレイユがゴーレムに乗って強引に前進する、などの案を考えたが、セフィの突破案が最も森を脱出できる可能性が高いという結論になった。セフィは後に備えて魔法のランタンに【ライト】をかける。

そして一行は北西に向けて一斉に走り出した。（ルルカとディルは【ホークフライト】で高速飛行をした）三十分ほどで気配がなくなり一時間ほど頑張ったなんとか尾行を撤くことができた。一行は疲労でTP10を消費した。（ルルカとディルは【ホークフライト】の消費のみ。ソニアはノーウェンの肩にいたので消費無し。マールは一本下駄の効果により消費無し）

そこからはまた痕跡を消して慎重な移動に戻り、1~2時間ほどでまた夕暮れの時間が近づいてきた。ルルカは夜の魔法の闇について魔法的な解釈を試みたが、空に浮かぶ黒い球が広がっていくくらいしか分からなかった。次にこの場所で夜営をしたら包囲されての防衛戦になる可能性が高い。今度も塹壕でやり過ごせるとは思えない。夜の闇の中でまっすぐ歩くには魔法の灯りが必要となるし真っ直ぐ歩けるとは限らない。しかし、マサヨシが木の上に上がって周囲を見渡すと遠目に砦のような建物と海岸が見えた。一行は方針を、レッドキャップたちとの夜戦よりも生き残れる確率の高そうな強行軍で砦の見えた方向に向かって突き進むことに決めて疾走した。TP8を消費しつつも夜の闇のもとになる球体が空に見えたところで全員の目に砦が見えるようになった。一行は魔術師四人で手分けをして【テレポート】で砦の前に転移して、森からの脱出を果たした。

砦	深海の蒼光 3/15 22:15~22:56
砦の前に出現した一行に砦の見張りをしていた子供が驚いた。子供たちは共通語が使えるようだ。誰何の声に自分たちはレッドキャップではなく骨竜帝モトを討伐に来たと説明し、砦の門を開けてもらって闇夜が来る直前に砦に入ることができた。すぐに砦の中も真っ暗になったが不思議な松明が灯って明るくなった。松明の炎は緑色に見える。砦の中には子供たちばかりがいるようだが、すぐに砦の年長者のピーターが出てきた。ピーターも15歳くらいに見える。	
森の向こう側（マルス）から人が来たのは初めて。ウェンディという女性がマルスの方に助けを求めに行ったきり帰ってきていない。	
河原で死んでいた女性の姿を写真記憶していたマサヨシだったが、絵に描き起こそうとすると時間がかかる。ノーウェンが場所を移すことを提案して、一行は集会所のようなところに通された。少女がコップに入った果汁を勧めてくれた。	
ピーター『森向こうのあの町から、きっと助けに来てくれる人が居ると信じていました。これで僕たちもこの生活から解放されるのですね』	
セフィ『——この場所からあの街が見えるのですね。よく今まで耐えてくださいました。……私達の最終目標は、モトを倒すこと。この森のレッドキャップたちは、その存在から力を与えられたと聞いています』	
ピーター『僕もそのことについてはうっすらとですが聞いています。ここから北の海峡の向こうに恐ろしい竜がいて、その竜のせいで怖いゴブリンやレッドキャップが徘徊するようになったって。ですが、森向こうのあの街まで逃げる事が出来れば、僕たちはもう大丈夫。生き残ったネバーランド王国の人間同士、団結すればきっと安全に生きていけるはずです』	
セフィ『——ええ、垣根を越えて団結すれば、安全に生きていける……はず、です』	

ピーター『ああ、すいません。こちらの事ばかり話してしまって。この砦に森向こうの人が来たのは初めてで。こんなことではウェンディ達に笑われてしまいますね。何はともあれ、森の中ではろくに眠れなかったでしょう。とりあえずゆっくりお休みください。詳しい話はまた明日にでも』

話しづらそうに言葉を濁すセフィを忖度するピーター。セフィとピーターの会話の間にマールは子供たちを観察して生活状況を推定した。子供たちはやせ細ってはいないので、食事は確保できているようだ。

一行は休息のための家の一つに案内された。

## 休息

深海の蒼光 3/15 22:57~3/16 21:41

家の中は片付いているが食器や調理器具、木彫りの人形（出来の良いものだったが特に変わったところはなかった）などが置かれており、つい最近まで誰かが生活していた様子がうかがえる。服（複数で全て同じサイズ）もいくつかかかかっていて女性の大人用のものようだ。真っ暗な闇の中だが家の中に緑色のろうそくが灯っているので周りは見える。

ルルカが観察してみると、ろうそくは魔法で作られたもののようで、ろうそくのように見えるがずっと使うことのできるものようだ。ろうそくの灯りも魔法の灯りで闇を照らすことができるようだ。（ろうそくの炎に紙を近づけたら燃えた）一行は交替で眠ることにして、ついでに逃亡中にできなかった作業を行っておくことになった。

マサヨシは女性の絵を描きあげることができた。ミレイユは短剣と吹き矢と毒の鑑定をしたが、毒の鑑定に失敗してしまった。毒の鑑定はLv8以上の忍者とLv8以上の錬金術師が協力して行う必要があるらしい。（短剣の鑑定結果は入手アイテム欄に記載。吹き矢は手製だが武器庫に置いてあるものと変わらない）ディルは吹き矢で受けた傷を改めて消毒しておいた。砦の中は静まり返っている。

続いてマールとルルカが協力して毒の鑑定を行った。

血帽毒：毒を持つ巨人の血を煮詰め、皿に毒草などを用いて毒性を強めている特殊な毒。 毒性値22 麻痺毒（神経性で60秒後に死亡） ダメージ（ターンごとに5点ずつ）。生命力が低い獲物なら2~30秒で、生命力の高い獲物でも、60秒で死に至る準即死毒。狩りにも戦闘にも向く毒で解毒薬を作るのは難しそうだ。

翌朝、ミレイユが服と木彫りの人形と部屋に魔法的な反応がないかを探った。部屋に魔法的な反応はなかった。（服と人形の追加情報は上記にまとめた）

## 砦の朝

深海の蒼光 3/16 21:44~3/16 22:18

朝になって家の外に出ると子供たちが水を汲んだりなどの活動をしている。森の向こう側から来た一行は手伝わなくて良いようだ。改めて砦の中を観察すると、砦の建物自体は乱雑に丸太を組んだだけという急ごしらえのようだが、設置されているたいまつや防衛用の設備（バリスタなど）、その他もろもろの魔法の品は非常に高度な物が置かれている。これら高度なアイテムが子供だけの防衛を可能にしたようだ。

ピーターの姿を探すと背が高くガラが悪いフック少年に引きずられていた。フックはマルスが化け物（ゴブリン）の砦だということを知っていて、一行がネバーランドの生き残りを助けに来たわけではなく、海峡を越えるために来たと言う。フックはネバーランドは自分たちの力で生き延びて、レッドキャップを全滅させて子どもたちも自分で守るから、外から来た救世主は必要ないと言い放った。一行が滞在するのは構わないが子供たちを連れて行くのは阻止するつもりのようなのだ。言いたいことを言うとフックはどこかへ歩いていった。

ピーターによると、一行が砦についたときにはフックは既に寝ていて、今朝になってピーターが彼に森の向こうから助けが来たから出立の準備をと言うと怒りだしたとのこと。フックはとても強い鉤爪の使い手らしい。武器の使い方は基本的に我流だが年長者が年下に教えるらしい。そしてピーターは砦に住む者は、18歳になったらみんな南を目指す（そして、マルスの街に助けを求めろ？）というしきたりがあることを明かした。南の街に救援を求めるのが最後の希望で、このしきたりはピーターが物心ついたときにはすでにあつたという。ピーターも18歳になったら行くつもりだとのこと。今までに何人もが南に向かったが誰も戻っては来なかった。砦に居るのは15歳のピーター、13歳のフック、11歳~12歳が5人ほどと10歳以下が20人ほどらしい。



ネバーランド砦が出来てから30年ほどになる。その前はこの一帯は人間の王国が栄えていて永遠の島（ネバーランド）と呼ばれるほどだったという。ピーターが生まれたときには砦生活だったのでその実感はないらしい。この砦の子供たちは、親の顔が分かるようになる前に親がしきたりに従って南の街に向かうので、みんな親の顔を知らない。昔はもっと人も多かったが、人もだんだん減ってきて（しきたりのせいだと思われる）ジリ貧になっている。フックはしきたりに従うのをやめろと言うらしいが、ピーターたちは南の街を目指さずにはいられないと言った。この砦の子供たちは奥の納屋に置いてある武器を使うらしい。この砦ができる前の永遠の島と呼ばれていたときのことを知るための資料がないかをノーウェンが訊いたが、ピーターはこの砦には松明と武器くらいしかないと言った。あとで武器が置いてあるという納屋を見せてもらうことになり、ひとまず朝食をとることになった。

## 朝食

深海の蒼光 3/16 22:21~22:58

朝食を振る舞ってもらっていると午前八時になった。マルスの方から扉の音は聞こえてこなかった。

朝食後にフックに話を聞いた。フックは鹿の骨を噛み砕いている。マールはフックにヴァンピールの血が入っているように見えた。

## フックの話

森の向こう側の街（マルス）は化け物の街。先々代の爺や先代もそう言っていた。

化け物は緑色の人型だとも、ゴブリンを賢くしたような種族だとも聞いている。

フックがレッドキャップに対抗できるのは闇視ができるから。これは砦の中ではフックだけが可能。（普通のヴァンピールには無理）

砦までのこのこやってきて助けてあげると言われても信用できない。一行のために砦の戦力を割きたくない。

外から来た者の言うことは信じられない。これは過去に外から来た者に騙されて大人たちが南の街に向かったきり帰ってこなかったから。

一行が砦に滞在するだけなら何も言わない。養ってもやる。しかし、砦の中では黙れ。子供たちをたぶらかすな。

フックは話を切り上げて狩りに出かけた。ピーターによると、いつもならもっと話は通じるが、ウェンディが出ていって以来フックはイライラしているらしい。

ここでピーターにマサヨシが描いた、森の中で死んでいた女性の絵を見せると、それがウェンディだと言った。ウェンディも夜目が利く方だったが闇視はできなかつたらしい。ピーターは他の子供達には知らせないようにしようと言った。後で墓を作るらしい。

一行が宿泊した家は、元々はウェンディとフックが使っていた家だったが、ウェンディが出ていってからフックは別の小屋に移ったらしい。まだウェンディの遺品は整理できていない。フックは態度には出さなかったが、実の姉であることもありウェンディのことを大事にしていたという。

ピーターは一行が目的を果たしたら、砦の子供たちを南の街に連れて行って欲しいと言った。セフィが南の街にいるのは人ではないと遠回しに言ったが、ピーターは人以外のいろいろな種族で栄えている街ですねと言って喜んでみせた。

ピーターの案内で奥の納屋にきた。納屋は高さ5m、幅10m、奥行き5mほど。他の建物と違って外観は美しく白く輝いていて淡く光を放っている。壁はオリハルコンのようだ。正面には開き戸があった。

扉を開くと中は光り輝いて様々な武器（一般的な形状だが、剣と魔法の物語に登場する武器だったら大抵はあるらしい）がまるで博物館のように置いてある。（ただしクロスボウやワーラグランデのような比較的新しい武器やスコープのようにマニアックな武器はない）不思議なことに取り出された形跡もない。武器庫の武器は無限に出てくるのだが、一人あたり一個までしか取り出せない。二個目からは触ることができなくなるという。武器を取り出すとすぐに新しいものが補充される。武器が扱えない子供に武器は持ち上げられないとピーターは説明した。武器が持ち出せるようになったら砦の防衛に参加するという。

ピーターが生まれたときには既にあつたらしく、ウェンディによると蔵そのものがネバーランドの秘宝らしい。試しにマールが鉤爪を、セフィが鞭（ウェンディの得意武器だったらしい）を、アグリッパが杖を、ディルが大剣を取り出して鑑定してみた。

鉤爪	重さ10 ベース30 オリハルコン製。登攀に+3の補正。双剣として扱う。両手に装備して2回攻撃可能。腕に装備するために、装備しながら別に武器を持つことが出来る。名前は存在しない。命中・ダメージ+2。
鞭	重さ10 ベース30 オリハルコン製。射程220cm 鞭マスタリーを使用。通常のマスタリー技を使用できない。盾の補正を無視する。命中・ダメージ+2。
杖	魔法の発動体。魔力+2。重さ10 ベース30 両手杖。魔法の発動体。オリハルコン製。
大剣	重さ10 ベース30 ダメージ+2、命中+2、ディフェレクト、パリアを強制的に無視する。射程300cm。オリハルコン製。

セフィは蔵ごと鑑定するほうが早いと判断して、蔵自体を鑑定してみた。

アーマリーオブギルガメス：ギルガメスの武器庫。伝説の王国バビロンの王が所持したと言われるこの世全ての宝が収められたと言われる十二の蔵のうちの一つ。武器庫の名前を冠する秘宝。一人につき一つ神々の武器を与え、無尽蔵に現れる武器によって国一つを神の軍隊たらしめる伝説の蔵である。遙か北方に存在する幻の王国、永遠の島と呼ばれる国に存在すると言われるが、その島の存在は夢幻のおとぎ話だと信じられている。アナザーワン最上位ネフィリム。

砦の子供たちの中ではウェンディが一番物知りだったらしい。ウェンディは特別な母親のような存在だったとのこと。セフィは伝承を思い出してみた。

ネバーランド（永遠の島）：遙か北方に存在すると言われる黄金の国。無尽蔵に採れる幻の鉱石に、あふれるほどに採掘される金や銀、宝石によって、その島全ての建物が宝石によって作られていると言われる伝説の黄金郷である。そこに生きる人々は全て不老不死と言われており、ピーター・パンの冒険のおとぎ話で有名。ネバーランドは通称であり、その本来の名前は大バビロニアと言われている。（目標ダイス8：一般人なら誰でも知っているレベル）

※ただし、世界の北は賊帝国ノルマ・カルセであり、この場所はむしろ西端と呼べる場所。伝承が間違っって伝わっていたようだ。

ウェンディはいつも、ただ一人南を目指せなかった老人で随分前に老衰で死んだ長老のところで、勉強していたから物知りだったようだ。その長老がいたのは、いまフックが暮らしている小屋らしい。フックは寝床を荒らされると冬眠している熊のように怒ること。ピーターは長老からは30年前に何があったかは聞いていないようで、ずっと前からこんな感じ（いまピーターたちが送っている生活と同じようなもの）と聞かされているという。

皆の子供たちの中で文字を読めたのはウェンディが最後だったらしい。ちょうどピーターが思い出したことには、ウェンディが長老から聞いた話をノートに取っていたという。一行が宿泊している家の二階にノートがあるらしい。一行はノートを読みながら宿泊している家に向かった。

## ウェンディ手稿

深海の蒼光 3/16 23:59~3/17 0:53

家に戻った一行が二階に向かうと、書斎じみた場所にノートやメモ書きのようなものが積み上がっていた。共通語の綺麗な字で書かれている。机の上には一枚紙が置かれていた。

ピーターへ。前に文字の読み書きは教えてあげたから、荷物の整理をしてきているときにこの手紙を読んできていると思います。……読めてるよね？ 読めてなかったら困るな。ここには長老から聞いた話を沢山まとめたノートを置いておきます。貴方はネバーランドの王にならなければならない人です。だからこれをみて勉強してください。18歳になっても旅立つという決断をしないで済むように。 ウェンディより

机の上には日記が一冊と「バビロニアの歴史1~3巻」「森向こうの砦について・考察」「私とフックの事について」というノートが置いてあった。手分けをしてそれを読むことになった。

バビロニアの歴史 1巻	バビロニアは世界崩壊前から存在していた千年王国です。伝説のネバーランドの舞台もこのバビロニアであり、あの伝説は本物です。不老不死の住人というのは嘘ですが、このネバーランドの住人は山エルフの血筋が混ざっており、普通の人間よりも長寿の人が生まれたり、時折先祖返りですべての闇を見通す魔眼を持つものが生まれます。黄金郷、宝石の家というのは誇張ですが、長らくこの島には世界では貴重な鉱石が湯水のように産出し、長らく栄華を極めました。
バビロニアの歴史 2巻	かつて、この千年王国には、偉大な王が一人、アルマーヤに向かう海峡で魔人エンキドゥと呼ばれる竜と出会い、叡智を授かりました。その叡智で英雄の王となったその人は、世界中の財宝をあつめて自らの蔵に収めました。その蔵にはすべての財宝が収められていると伝説になり、のちにその伝説に伴い、十二の蔵がバビロニアには存在するようになりました。魔人エンキドゥは骨の無い竜と呼ばれ、長らく王ギルガメスの永遠の友として酒を酌み交わしました。しかしギルガメスが死ぬと、エンキドゥは海峡に姿を消し、その姿を見た者は誰も居ないとのことです。
バビロニアの歴史 3巻	それから世界が崩壊したのちも、バビロニアは驚異の復興を見せ、外界から閉ざされたネバーランド王国として発展を遂げました。私達が、伝説のピーター・パンの物語の登場人物から名前を与えられていることが多いのは、過去の栄光と誇りを忘れない為です。長らく繁栄を謳歌したネバーランドでしたが、或る日突然現れた、赤い帽子の魔人達によって滅ぼされることとなります。王達はその血筋を絶やさないために、海岸沿いの砦に避難し、そこにギルガメスの蔵と、ギルガメスの蔵から出した兵器を設置して要塞を作りました。それがこのネバーランド砦の始まりでした。今から40年前のことです。そしてその王家の末裔こそが、ピーター貴方なのです。何故なら、ピーター・パンは英雄の名前。ピーター・ギルガメス王から代々続いた貴方の正式な名前はピーター・ギルガメス 67世です。貴方は知らないかもしれませんが…ここから先の歴史は貴方がつくるのです。ピーター。自分の使命を忘れないで。
森向こうの砦について・考察	森向こうの砦については、叡智を得たゴブリン達の城塞であると考えられています。そのようなことが話し合われた記録が残っていますし、長老もそう考えています。人間の国だというのはデマです。デマですが、叡智を得たゴブリンは畜生の類ではありません。フックは解ってくれないけれど…多分話せばわかってくれるのではないかと考えています。だから南を目指すのは間違いではないと思います。

私とフックの事について

私とフックは戦犯の娘（註：姉弟）です。何故ならば、外からの来訪者の言葉に惑わされて、このネバーランド砦を滅亡に追い込んだのは私とフックの父親だからです。世界の果てまで逃げた吸血鬼の女を匿ったのが私達の父親であり、その吸血鬼が私とフックの母親です。安寧の地を手に入れた吸血鬼の女は、こともあろうに、この状況から脱出するために、南の城塞へ向かうよう砦の中の大人たちをそそのかしました。それを真に受けた私の父は、こともあろうに、あなたの父親を焚きつけたのです。あとはもう雪だるまのように、南へ向かおうとする大人が砦を出ていきました。勿論戻ってきませんでした。レッドキャップに勝てる道理はありません。残ったのはわずかな女達。狩もできませんが飢えるわけにもいかず、ポツリ、ぽつりと大人は減っていきました。幼いピーターは大人が居たことなど覚えていないかもしれませんが。毎日がお葬式でした。それもこれも全部私の父親と母親のせいです。私達は外からの人間の言葉など聞くべきではありませんでした。だからごめんなさい。ピーター、貴方は外の人間の言葉には騙されないようにしてください。

日記（末尾）

私とフックは戦犯の娘（註：姉弟）です。フックはそれを知っています。だからフックはこのネバーランドの子供たちを守るために向こう見ずに戦いに向かっています。レッドキャップも馬鹿ではありません。いつかは暗闇が見えるフックの秘密に気づいて対策をしてくるはずですが。このままではフックも死んでしまい、ネバーランドは絶滅してしまいます。だから私は18歳になったので「掟の通りに」南を目指します。私の父親は、母親に騙されて南を目指した戦犯です。でも、母親は悪意によって南に向かう事を口にしたわけではないと思います。愛する私やフックが、いつかはレッドキャップに殺されてしまうことを恐れたのだと思います。きっと命がけだったのです。私が最年長となってしまった今だからよくわかります。私の母親と父親は戦犯なんかじゃありません。皆が大好きで命をかけて、失敗しただけの自慢の父親と母親です。私達が命をかけて南を目指すのは間違いではありません。だから、私も愛するフックとみんなの為に南を目指します。もし、成功したらその時は、きっと私のお父さんとお母さんが間違っただけと胸を張って言えると思うから。だから、無事に帰ってきたら、今度こそみんなで笑って一緒に暮らしましょうね。

一通りノートを読み終わったときには午前11時だった。フックの狩場は近場を転々としているらしい。フォルトウナがリスクを冒して空からフックの行き先を探してみると、ちょうど砦から200m離れた場所でレッドキャップに取り囲まれているのが見えた。しかもフックは瀕死のようだ。上空に飛翔していればテレポートで急行可能だが地上にいる状態では木が視線を遮るので無理。

フックの危機（状況整理）	深海の蒼光 3/17 0:53~1:23
(魔法などで) 飛行手段のあるキャラは上空20mからスタートしてもよい。それ以外は地上スタート。	
上空20mに居る状態だと現場が目視できる。テレポート（拡大含めて3人まで）可能。地上からだとは現場は目視できないが方向のみわかる。	
200m移動することで、地上からも空中からも現場にたどり着くことができる。	
戦闘ターンとして処理。1ターン目から。レッドキャップもフックも（1ターン目の）A行動は終了済みの状態から開始。	
2ターン目のA行動時に、現場にフックしかいない場合、レッドキャップは確実にフックにとどめを刺す。	
ホークフライトでは現場に到着するのは4ターン目。	
現場は飛竜で降下可能。D行動でサモンドラゴンして、飛行状態からのスタート可能。	

ドローンや使い魔の視界共有で現場へのテレポートは可能。

魔術師にテレポートで運んでもらった人は2ターン目から行動可能。

テレポート計画：

ルルカがディルとマールを連れてテレポート。

アリーヤはソニアとアグリッパを連れてテレポート。ソニアは即座にフックを回復。

セフィはマサヨシを連れてテレポート。

ミレイユはノーウェン(と、白飛竜)を連れてテレポート。

## レッドキャップとの二回目の戦闘

深海の蒼光 3/17 21:09~3/20 22:30

テレポートに備えて空中に浮遊したセフィ、マサヨシ、ミレイユ。白飛竜を呼んで空中に上がったノーウェン。テレポートの目標まで視界を確保するために使い魔を飛ばすルルカとドローンを飛ばしたアリーヤ。ミレイユが赤外線視力で戦場のいまの様子を見た。



フックは距離10m離れた位置から、A・B・C・D・F・G・H・Iの8人のレッドキャップに包囲されている状況。EとJの二人のレッドキャップは後詰としてフックから20m離れた位置に控えている。（射撃対策で木に隠れているためフックの位置からでは射線が通らない）各レッドキャップは（範囲攻撃対策で？）それぞれ11m以上の距離をとり、徹底的にフックの得意な接近戦を避けるために投石機（スリング）を用いている。明らかに一行が救援に来ることを想定していた。

## 1ターン目

レッドキャップたちとフックは行動を終了した状態。

セフィが【ダブルキャスト】を宣言。マサヨシが【土道覚悟】を宣言。

テレポートに先立ってディルは【グレース】で幸運を呼び、ノーウェンが【サモンドラゴンブラッド】で毒への対策をする。

そして、一行はテレポートを開始した。セフィがマサヨシを連れて【テレポート】。次いでルルカがディルとマールを連れて【テレポート】。さらに次いでミレイユがノーウェンを連れて【テレポート】。最後にアリーヤがソニアとアグリッパを連れて【テレポート】。突然出現した一行に驚いたのはフックだけだった。テレポート後にセフィがフックに【魔法剣エナジー】を当ててHPを回復させる。ミレイユがダムビットで【シャドウサーヴァント】を使いドラゴントゥースウォリアーを影から呼び出して、さらに【バペットブースター】で強化して配置。ルルカが【ジェノサイドオーダー】でレッドキャップ全員を即死させたかと思われたが、レッドキャップは前回の戦訓を取り入れライフアミュレットを装備しておりライフアミュレットを身代わりにして死を免れた。

## 2ターン目

ディルが【騎士宣言】と【騎士道大原則】を宣言。ミレイユは【ハンティングモード】の体勢をとり、ドラゴントゥースウォリアーはフックを守護するために【全力防御】をしてZOCを展開した。セフィは【ダブルキャスト】を宣言して【巨人のブルース】を踊り始める。ノーウェンは【竜騎士宣言】を宣言して味方に恐怖無効を付与。マサヨシは【柳神流大上段】の構え。

レッドキャップたちは一斉にバックステップでフックから離れて距離15mとなり各々の間の距離は13mとして、さらに一斉にディルに向かって吹き矢を連射した。ディルは【グレース】の効果で1発を回避。さらに【ピンポイントバリア】を展開して19発命中した吹き矢のうち3発のダメージをカット。猛毒への抵抗を全て成功させた。信じられない様子のレッドキャップたち。

フックは毒が回ってさらにダメージを受けた。

ルルカが【長い声のぬこ】を鳴らしてレッドキャップたちをスタンさせた。マサヨシはレッドキャップCに接近して【奥義・拾】で運命力（超英雄P）を使って斬りダメージを与えた。アグリッパもレッドキャップFに斬りつけてダメージを負わせる。セフィは一手目でレッドキャップB・D・E・F・Jに【ルーテッドフィート】をかけたがレッドキャップの移動阻害を無視するという特性により無効化された。次いで【エンジェラス】を使用してフックを含めた味方全員に被ダメージ-1を付与。ソニアとディルは神聖祈祷【フルリカバリー】でフックのHPを全回復。ミレイユが【ウォーターセラピー】でフックにかかった毒を解毒した。ノーウェンは【ライサンダー】でレッドキャップCにかすり傷を負わせた。アリーヤは【ヘッドショット】でレッドキャップCを即死させた。



### 3ターン目

2ターン目にルルカが鳴らした【長い声のぬこ】でレッドキャップ全員がこけた。  
 ディルが【騎士宣言】と【騎士道大原則】を継続。ミレイユも【ハンティングモード】を継続し、ドラゴントゥースウォーリアにも全力防御を継続させた。ノーウェンも【竜騎士宣言】を継続。アグリッパは【ダークソード】を使用。マールは【音無し+】と【変幻殺法・風】の構え。  
 セフィが【死神のカード】でレッドキャップA・Gを即死させようとしたが受動防御に阻まれた。アグリッパは二刀流に変化してレッドキャップFを二回斬りつけたが片方が受動防御に阻まれた。アリーヤは【ヘッドショット】でレッドキャップAを確実に射殺。ミレイユは【リメイカー】でレッドキャップH・Iをカエルに変え、ルルカが敵全員を【ワイルディホワイト】で凍りつかせた。カエルにされていたレッドキャップH・Iが凍死。レッドキャップB・D・E・F・Gにもダメージを与えた。マールはレッドキャップFに接近してワーラグランデで二回殴りつけたが、レッドキャップの硬い防御を破ることはできなかった。ソニアは行動を放棄した。

### 4ターン目

レッドキャップたちのうちの一人が持っていたスクロールを破くと、生存しているレッドキャップは全員が光りに包まれて転移のような術で撤退した。

フックは一行の処置により回復して動けるようだ。レッドキャップは食用ではない。

周囲を警戒する中、**マールがスクロール2巻、吹き矢4つ、羽矢20本、ククーリ2本を回収**。全員で砦の前まで移動して、そこでスクロールの鑑定を行った。セフィがまず鑑定を行ったが上手くいかない。ハイプリーストの知恵が必要だった。そこで、ソニアがスクロールを鑑定した。

リターン・ガラリー（ガリラヤに帰れ）：失われた神の術。大神聖祈祷。半径100mの軍団を本拠地に移送する。（対象）選別可能。消費20TP(固定)。範囲内の任意のキャラクター、物品、全てを転送する。（荷馬車や戦利品なども輸送できる。スクロールを破けば使用できるが、ハイプリースト・ダークビショップ・双子神殿のプリーストのみスクロールを呼んで習得することができる。大魔法扱いなのでスロットを占有する。一行の誰かが使うと、ホオツキへ、フックやピーターが使えばネバーランド砦へ帰還することになるようだ）

鑑定が終わった時点で全員で砦へと戻った。

## 王の自覚と作戦会議

深海の蒼光 3/20 22:32~3/21 21:46

砦に戻った一行とフック。子供たちが心配そうに出迎えた。

セフィはフックとピーターにウェンディのノートに書かれていた話を聞かせることにした。

ウェンディの家に移動してセフィはフックとピーターにバビロニアの歴史と森の向こう側の街（マルス）について書かれていたことを話して聴かせた。

**ピーターはレッドキャップたちにもうフックの戦い方が通用しないと指摘**。マルスへの移動を主張するが、フックはマルスの街にいるのはゴブリンたちで行ったところでゴブリンに殺されるだけだと反論する。たとえ一時的に保護されたとしてもネバーランドの王族の血を引くと分かったら、王国の再興を嫌ったゴブリンたちに殺されるとフックは断じた。

マールは本気で今の場所で自活できているのかと、ウェンディは笑って過ごして欲しいと言っていたがここにとどまってそれができるのかと、二人に問いを投げた。とっととマルスに行って遊び暮らしたいと思っているピーターと、ゴブリンは人間に倒されるものだと決まっていますマルスを目指した人々には誇りが無いのだと言うフック。さらにマールはここで言う人間とは何かをフックに問い、暗に世間一般的な定義から外れて秩序を維持して生活しているゴブリンたちはもう人間と呼べるのではないかと主張しそうな勢い。

それに対しセフィはゴブリン帝国に対する貸しを使って、モトを打倒するという恩を売りつけることでフックが言うような結末にはしないと匂わせた。セフィはピーターたちに、海峡を越える手段の提供を教えてくれるよう依頼する。**ピーターはそれに対して、海を越える方法があると答えたがそれは実質不可能だと語る**。海を渡るための『王の船』が海岸線の蔵にあるらしい。王の船なら流氷も避けていくとのことだが、『王の船』を収めた蔵はレッドキャップの集落のすぐ近くにあるという。

かつて『王の船』を使って避難をできないかという案がネバーランド砦にもあったが、レッドキャップとの全面戦争が避けられないのでその案は却下されているとピーターが言った。フックは逆に全面戦争に乗り気の様子。フックを大人しくマルスに移動させるのは無理そうだ。セフィはレッドキャップと正面から戦った場合の勝算を考えたがかなり不利になると予想。**マールが砦の食糧事情を確認すると、蓄えはあと10日分程度とのことだった**。

どう戦えばいいか悩む一行に、**フックはレッドキャップは攻められ慣れていないので蔵の警備は甘いだろうと言う**。マールは偵察をして情報を集める必要があると判断。森の中で夜を迎える危険を指摘するディルに、フックは昼間のうちに動けば良いという。ディルは続けて森の東の方に何かがある可能性を指摘。それに対してピーターは気になることがあるという。**レッドキャップたちが便利な小道具を出してくるのはレッドキャップも同じような宝物庫を持っている可能性があるという**。宝物庫さえ押さえればレッドキャップは便利な道具を補充することができない。長老が何か書物を持っているということはなかったもので、宝物庫は偵察して探すほかはない。

一行は何らかの方法で空を飛んで偵察するのが良いという結論に達した。そこで、広大な東方面の偵察に【ホークフライト】で高速飛行が可能なルルカ・ディル・アグリッパを、レッドキャップの集落に近い西方面の偵察にコストをあまり消費すること無く飛行できるマサヨシ・ソニア・フォルトウナを出すこととなった。



## 西方面偵察

海中の恋歌 3/21 21:50~23:11

マサヨシとフォルトゥナとソニアは西方面への偵察に出発した。少し飛んだところで、上空に魔力の渦ができていて魔力を吸い出していることが分かった。夜の帳（夜間に闇夜になる現象）の維持するための魔力を集めるために大気中の魔力を吸い出すためだと思われる。これは以下の法則性を持つようだ。

島の上空では魔術の持続時間が短縮される。上空1~20m：影響無し 上空21~25m：1/3 上空26m~30m：1/5 上空31~40m：1/10 上空41~60m：1/12 上空61~80m：1/15 上空81m~：魔術の効果自体が消失

ソニアはマサヨシの荷物に入っていて、マサヨシの飛天は持続時間に制限が無く、フォルトゥナは羽で飛んでいるので三人とも魔力の渦による影響は受けずに済んだ。

マサヨシが千里眼を利用して集落と海辺の蔵の様子を見た。ネバーランド砦からレッドキャップの集落までは約90km、ネバーランド砦から海辺の蔵までの距離は70kmほどで、移動するのに一日半を要することが分かった。周囲に災害霊の気配は無い。魔力の渦に接近すると、渦の中心は魔力の吸引が激しく、アンチ・マナにも似た空間になっている。ソニア（神域神聖祈祷）とフォルトゥナ（魔法知識と六芒眼）とマサヨシ（仙術）の知識を合わせて魔力の渦の構造を読み解くことができた。

過去に剣王国で遭遇（GS18話『神の造物主』）した『神の捏造』と同様な魔力吸収の仕組み。一定の種類魔力（今回の場合は本来この森に張り巡らされている何らかの結界術）から魔力を吸い上げることによって魔力を確保している。魔力の経路が緻密に作られていて六芒眼が無いと術の概要すら分からない。魔力を蓄えるために、既存の魔石ではなく宝貝が利用されているようだ。魔力の経路を辿って中心になる宝貝を回収してしまえば森の結界が復活し、夜の帳が降りなくなる。

魔力の流れを見たところでは宝貝の場所はかなり遠くにあると思われた。マサヨシは宝貝が周囲の精気を吸うため『不自然に木などが生えていない地域の中心地』に宝貝があり、その宝貝は魔術の操作と吸収を行うことのできる『太極図』か『太極符印』だと予測した。三人はこの魔術吸引の仕組みを作った術者は魔術にも神域神聖祈祷にも仙術にも精通しそれらを自在に組み合わせて術式を組み上げる叡智を持っていると分析した。今の場所からその宝貝があると思われる位置に向かうためには170kmを移動する必要がある。徒歩では三日はかかるため、ノーウェンの白飛竜を使う必要があるだろう。

マサヨシはさらにレッドキャップの集落を観察し、そこがネバーランド砦と同様に城壁のある山城になっているが、内部には蔵がないことを確かめた。レッドキャップの集落近くの蔵は海辺にしかなかった。

ここで、一旦ネバーランド砦に帰還して仲間と合流することとなった。

## 東方面偵察

深海の蒼光 3/21 21:46~22:23

ルルカとディルとアグリッパは東方面に向けて【ホークフライト】を使うことで出発した。高度は50mほどを高速で進むが魔力視で自分たちが光りに包まれていることを悟った。本来一時間ほど持続する【ホークフライト】がわずか10分しかもたない。ルルカが六芒眼を使用してみると、上空に魔力を集める層があり、魔法の効果には影響しないが持続時間に影響することが分かった。以下の法則に従って上空に行くほど影響が強くなるようだ。

島の上空では魔術の持続時間が短縮される。上空1~20m：影響無し 上空21~25m：1/3 上空26m~30m：1/5 上空31~40m：1/10 上空41~60m：1/12 上空61~80m：1/15 上空81m~：魔術の効果自体が消失

永続的な魔術や魔力によらない飛行であれば効果が及ばないようだ。高高度からの偵察には飛竜が必要になりそうだ。森を一周しようとする314kmほど（南北に100km、東西に200km。四国より一回り小さい）になるようだ。【ホークフライト】は空中でのかけ直しはできないが持続時間の拡大は可能と分かったところで、三人は一旦砦に戻ることにした、

## 闇よ落つるなかれ

深海の蒼光 3/21 22:25~23:42

居残り組が砦で休息しているとルルカとディルとアグリッパが戻ってきた。

東側偵察組と情報を共有すると飛竜で東側に行くことを検討開始。白飛竜は乗せるだけであればノーウェンを除いて6~8人を乗せることができる。ディルが地図の東の方に木のない地域についてピーターに訊くと、ピーターもよく分からないようで、理由は判らないが何故か木が生えない不毛の土地になっていて、レッドキャップに見つかる可能性が高い地域で近寄ることができないらしい。その地域まで飛竜で行こうとすると5時間程度で行けそう。(森を一周すると一日かかる)

ここで、マサヨシとフォルトゥナとソニアが戻ってきて情報を共有した。

闇夜の到来を防ぐためには、島の東方にある木の生えていない地域の中心部にある宝貝を回収する必要がある。全員で白飛竜に乗るのは危険かと考えたミレイユだったが、高高度で移動して安全な場所に降下すれば、敵に竜騎士でもない限り問題はないようだ。

一行はノーウェンの白飛竜に相乗りして宝貝があると思しき場所へと向かった。5時間ほど経過して午後五時頃に現地へと到着した。マサヨシは明らかに超宝貝が発動している気配を感じ、魔力視ができる者は魔力が一箇所に集積しているのを感じた。それ以外の者も嫌な感じを受ける。草木の生えない渴いた割れ目だけの荒れ地の真ん中に真っ白な蔵がぼつんと建っている。周囲には三体ほどのレッドキャップが見張りをしているようだ。蔵の外観はネバーランド砦にあるものとあまり変わらないが、詳細は鑑定しないと分からない。

## 状況整理

深海の蒼光 3/21 23:43~2/22 0:08

レッドキャップたちは雄ばかりの三体ほどで、現在の相対距離は100mほど。

15m飛び降りるならすでに気づかれてはいるがレッドキャップたちに対して先制攻撃も可能。

15m飛び降りると防御無視・小属性の物理ダメージ15。シーフは【受身】の効果でシーフレベルだけダメージ軽減可。

誰かに押さえてもらう(両腕使用不可・スタン状態になる)ことで上空からクロスボウか銃での狙撃は可能。

上空からノックバックのつく攻撃をすると壁に激突と同じダメージを適用可とする。

着地後A行動スキル使用可能。飛び降り系の技があるならそれも使用可能。

飛び降りてからのS行動も可。

魔法が使えないわけではない。(おそらく持続時間のある魔法は短時間化される)

## 大惨事！降下作戦！

深海の蒼光 3/24 21:21~23:24

アグリッパ・ソニア・ディル・マサヨシ・マール(及び影の中にいるセフィ)・ミレイユが白飛竜から飛び降り、アリーヤはレポートで着地。白飛竜を駆っているノーウェンとルルカが上空に残った。

地上：【赤帽A・赤帽B・赤帽C】【マール(影にセフィ搭載)】-1m-【ディル】-2m-【マサヨシ】-2m-【アグリッパ】-5m-【ミレイユ・ソニア(透明・上空5m)】-20m-【アリーヤ】

上空：【白飛竜・ノーウェン・ルルカ】

### 1ターン目

地上に降下したメンバーはレッドキャップの先手を取ることができた。

マサヨシが【奥義・無念夢想】の構え。マールは【音無し+】【変幻殺法・林】を、ディルが【騎士道大原則】【集中】を、アグリッパが【にゃんこスタイル】【ハンティングモード】【ダークソード】を宣言。

ミレイユが【ワイルディホワイト】を詠唱するが運悪く不発。(ファンブル)アグリッパが【飛びかかり】で両手の剣を閃かせて斬りかかるが運悪く両方とも外れる。(受動防御)マールの【心臓抜き】も運悪く外れた。(受動防御)アリーヤの銃撃もレッドキャップの防御を抜けない。マサヨシの【空】【返し】の居合コンボはレッドキャップAにダメージを与えるが倒すには至らない。ディルのワーラグランデ(アリオト)、クレイモアの【幻影刃】でレッドキャップAにダメージを与えて追い込むが、赤いワーラグランデはレッドキャップBに躲かれた。ルルカの【アサルト】も運悪く不発。(ファンブル)

ことごとく不運に見舞われて相手を倒せない一行に、死兵と化した**レッドキャップ**三人がスクロールを破ると空から大量の隕石（複合、指定範囲、複数、無差別、純魔力）が落ちてきた。容赦なく降り注ぐ隕石群（うち一つはクリティカル）に一行は防御の手札を喪っていく。ルルカは不運（連続ファンブル）を回避するために**運命力（ノーウェン（2回分）とマールの超英雄P）**を使って白飛竜を脱出させた。ミレイユが【パーミッション】を使い、アリーヤは【ディメンションスリップ】を使い、セフィは【プロテクションフロムアイギス】と【パワーシンク】を使い、ルルカは【ATフィールド】を展開。ノーウェンはミレイユのパーミッションの範囲に飛び込んで、残りを身体で受け止めた。マールは【魔法受け】で隕石を切り払ったが、マサヨシは【魔法受け】で隕石を切り払う時に**運命力（超英雄P）**を消費してしまう。さらにセフィとミレイユとアリーヤは【ブルースフィア】でダメージを軽減。ソニアとディルとアリーヤとアグリッパはマジックアミュレットを割る羽目になり、ソニアは生死判定を行い、成功。それぞれ回復をしたが大いに消耗。レッドキャップは自らの攻撃で全滅していた。

特記

この戦闘だけでPL側のファンブルが7回、敵のクリティカルが1回、PL側のクリティカル2回発生（ただし特効無し）。

## 宝物庫

深海の蒼光 3/24 23:25~3/25 22:40

隕石群の直撃を受けても傷一つつかない宝物庫。レッドキャップの遺留品も残っていない。レンジャー持ちが周囲の警戒をする中、セフィとマサヨシが宝物庫に取り掛かった。セフィが宝物庫の鑑定を行った。

トレジャーハウスオブギルガメス：ギルガメスの宝物庫。伝説の王国バビロンの王が所持したと言われるこの世全ての宝が収められたと言われる十二の蔵のうちの一つ。遙か北方に存在する幻の王国、永遠の島と呼ばれる国に存在すると言われるが、その島の存在は夢幻のおとぎ話だと信じられている。こちらの方にはスクロールなど財宝とされる様々なアイテムが収められている。アナザーワン最上位ネフィリーム。

宝物庫を開けると中には巨大な図面が広げられており、まばゆく光り輝いている。ガラクタになったマジックアイテムも多数置かれている。それらのマジックアイテムと宝物庫自体から巨大図面が激しく魔力を吸収している。このおそらく宝具であろう巨大図面をマサヨシが鑑定した。

太極図：究極の七大宝具の一つと言われている伝説の宝具。太上老君が封神されてからは行方不明になっていた。陰陽の太極から、四象、八卦に至るまで、この世のあらゆる理が記されている究極の図面。あまりにも巨大すぎるために非常に扱いが難しい。効果：術者から周囲1mをアンチマナエリアに変化させる。（術者のMIも太極図以外は全て魔力が消える）指定した20m以内の地点の半径1mに、あらゆる魔力に+2のボーナスを与える結界を張る。展開中、自身に受けたあらゆる魔法攻撃（ドラゴンプレスも含む）を五つまでストックし、自身の手番にその魔力に+2上乗せした状態で同じ術を任意の相手に打ち放つ。（これはA行動だが1ターンに全部打ち返しても、別のターンに分けて打ち返しても良い）展開するために2ターンかかり、展開した後は2ターンに1度しか動くことが出来ない。（行動不能ターン中には抵抗以外一切できない。回避も不可）使用すると一回の戦闘（戦闘継続ターンに制限は無い）につき、寿命が一年短くなる。使用してもTPは消費しない。ネフィリーム。

現状で、この宝具が何か非常に高度な術式の核となり、所有者不在で発動し続けている。この宝具を高度な術式から取り出すためには+5以上のマジックアイテムを犠牲（ロスト）にするか、仙人が寿命を10年犠牲にすることが必要になる。また、仙人ならば寿命を20年犠牲にしてこの宝具を自分の所有物とすることもできる。その場合は現状持っている宝具の所有権を放棄することが必要となる。

マサヨシは迷わず太極青雲剣を手放して太極図を自分のものとした。その瞬間に蔵の中に転がっていたマジックアイテムに魔力が戻った。しかし蔵の光は元に戻らない。現在転がっているアイテムは本来無尽蔵に出現するようだが、太極図が吸い尽くした魔力が回復するまで、アイテムの生成機能は失われているようだ。

蔵の中はアミュレット類、スクロール、ポーション、魔唱石（20点分）、薬瓶などが無数に転がっている。武器庫と同様に一人一種類一つだけ取り出すことができる。一行が全力で持ち去れば中身は相当減ってしまい、レッドキャップがアイテム増強をすることはしばらくできそうになくなるだろう。

一人でアミュレットを一つ、スクロールを一本、ポーションを一つ、魔唱石（20点）を一つ、薬瓶を一つ持っていける。天使が持っていても良い。アイテムは時間制限で消えるものではないが、消耗品は消費したら消える。

一行は少しでも多く持ち去ってレッドキャップのアイテム補充にダメージをかけようと天使まで動員して、各種類12個ずつのアイテムを運び出した。

ものを持ち出して改めて宝物庫周りを観察した。太極図を使った魔力回路が動かなくなり何かが変わったはずだが、今のところ実感は得られない。一行は砦へと戻った。

**帰還とお宝** 深海の蒼光 3/25 22:49~3/26 21:31

一行は砦に帰還すると、セフィがピーターに読み書きを教え始め、それ以外のメンバーで持ち帰った品の鑑定を行った。ピーターの読み書きは彼のやる気にもよるが、あと一週間程かかりそうだ。

**鑑定結果**

種別	名称	個数	標準価格	効果
アミュレット	生命の腕輪	6	50000	即死攻撃、即死魔術を一度防ぐ。もしくは生死判定の失敗を一度だけ成功に変える。使い捨て。
	情熱のネックレス	3	20000	生命力マイナスの状態から、一度だけHP5まで回復する。発動は任意。使い捨て。
	静謐のチョーカー	3	20000	TP0で昏倒の状態から、一度だけTP5の状態まで回復する。これは肉体的、精神的どちらの状態のTP枯渇にも対応する。使い捨て。

種別	名称	個数	標準価格	効果
魔唱石	魔唱石	6	50000	20点魔唱石。
	炎の魔唱石	3	60000	15点魔唱石で、炎系の魔術をこの魔唱石で用いた場合、魔力+2の効果がある。
	静謐の魔唱石	1	60000	15点魔唱石で、精神作用系の魔術をこの魔唱石で用いた場合、魔力+2の効果がある。
	死者の魔唱石	1	100000	15点魔唱石で、ネクロマンシー系の魔術をこの魔唱石で用いた場合、魔力+4の効果がある。
	没頭の魔唱石	1	100000	12点魔唱石で、アルケミストの薬品製造をこの魔唱石の魔力で行った場合、達成値に+6の効果がある。

種別	名称	個数	標準価格	効果
ポーション	命のポーション	3	8000	(「生命力」の値まで) 生命力を20点回復する。使い捨て。
	魔力のポーション	2	10000	(「精神力」の値まで) 魔力を20点回復する。使い捨て。
	英雄の秘薬	2	20000	飲むと1戦闘中あらゆる判定に+1がつくポーション。使い捨て。
	覚醒の目薬	2	15000	目にさすと、24時間、「闇視」、望遠視力(1kmまで物が細かく見える)、六芒眼の効果を得る目薬。使い捨て。
	不死の塗り薬	3	15000	体に塗ると、任意で1度まで受けたダメージを0点にすることが出来る塗り薬。体中に塗るのに10分かかる。塗ってから24時間有効。使い捨て。

種別	名称	個数	標準価格	効果
薬瓶	命の水	2	50000	人形、及び人型をした物に命を与える幻の秘薬。ドール、死体をパペットゴーレム化する。七歳児程度に命令を聞き分ける。レベルは主人に合わせり、ドールの場合能力値ボーナスは全て3、死体の場合は生前の能力値として扱う。
	若返りの薬	2	600000	年齢が5歳若返る。
	ラストエリクシャー	1	200000	死亡を含めてあらゆる状態(HPやTP含め)を完全に回復する。死体の一部(骨の欠片でも可)でも残っていれば有効。死亡してからの年数すら問わない <b>(使用済)</b>
	バビロンの盃	2	1000000 (青天井)	あらゆる生命を受肉させる薬。魔法生命体がこれを飲み干すと、種族能力を保持したまま、種族が「人間」に変更される。年齢は見た目準拠。(ホムンクルスは10歳、天使は15歳など)

種別	名称	個数	標準価格	効果
薬瓶	転生の薬	2	200000	飲むと死ぬ。但しスキル、能力値（種族限界を超えていても保持）、記憶を保持したまま、10年後に出自の全く違う別人として転生する。種族は元々の種族になる。アンデッドや異形化した存在もアンデッド化または異形化により獲得した能力を失って元々の種族に戻る。（詳細は深海の蒼光 2021/3/26 0:20~1:11のログによる） 「生まれたことのない」または「絶滅種など母体が存在しない」生物が呑むと、死ぬだけで効果が得られない。
	テレパシーエキス	3	30000	非常に美味しい酒。分け合って飲むと、分け合って飲んだ相手と、一日の間、念話をおこなえるようになる。念話の内容は分け合った全員に聞こえる。距離無制限。瓶一本でパーティ全員で飲めるが、同時に飲む必要がある。

種別	名称	個数	標準価格	効果
スクロール (読めば習得。破れば奥義書も含めて魔力18で発動可。読むか破くと消える)	ゾルトラーク	2	500000	古代の貫通系魔術。とある魔界貴族が使ったとされる。あらゆる防御術式を貫通するために防ぎようがないと言われた人を殺す魔法。後に多くの魔術師によって研究され、この術を防ぐための術式【リフレックス】が開発された。ベース20、無属性で貫通作用があり、20mまでの直線状に並んでいるすべての対象にダメージを与える。あらゆる阻害系、鉄壁防御系の術を無視する。【リフレックス】でのみ反射することが出来る。精神消費12 <b>ソーサリーLv3以上で習得可能</b> 。対人/放出範囲/複数/無差別/純魔力。 <b>(アビリティスロット二つ占有)</b>
	コメットストーム	1	500000	半径50m以内に隕石群を降らせる魔法。術者も巻き込まれる為に欠陥魔法として闇の中に葬られた。後にこの魔術が改良されて【メテオ・スウォーム】が完成した。術者より半径50m(術者含む)、遮蔽無視、庇う等無効、切り払い可、ベース70 TP10消費(固定) 大魔法 複合/特殊/複数/無差別/純魔力/大規模級 <b>ソーサリーLv6以上で習得可能。大魔法扱い。(必殺技スロット一つ占有)</b>
	口伝・疾風	2	500000	奥義書。半径10m以内の全ての対象に通常攻撃を行う。 <b>習得にはファイターLv6前衛職Lv3以上が必要</b> 。TP3消費(固定)。1日1度まで使用可能。対人/放射範囲/複数/無差別 <b>必殺技扱い。(必殺技スロット一つ占有)</b>
	口伝・血操	2	500000	奥義書。流した血を刃に変える。最大生命力を消費して武器を作り出す。最大HP1点につきベース10、射程50cm。HP1点を消費し、命中+1orダメージ+1を付与。HP5点を消費し、クリティカル-1を付与する。武器の形状は自由だが、ベースや命中は変わらない。攻撃方法は振り/突き、斬り/叩きから自由に選択可能。持続時間は2時間。消費した最大HPは1日に1点ずつ回復していく。 <b>アビリティスロット二つ占有。</b>
	秘伝・調合	2	500000	薬品調合の秘伝書。習得すると薬品製造の達成値を永久に+1する。パッシブスキルで <b>スロット不要。</b>
	秘伝・調理	2	500000	調理の秘伝書。習得すると調理、及び製菓の達成値を永久に+2底上げする。パッシブスキルで <b>スロット不要。</b>
	服従の天秤	1	500000	抵抗に失敗したパペットゴーレム、及び魔法生命体(天使・ホムンクルス含む)、もしくは意思の無いアンデッド、死体、人形を服従させる術。服従対象は1体で自由に操ることが出来る。効果は1日。死体に用いた場合生前の能力を使用可能(肉体技のみ)。ドールマスターの源流とも言われる人形術。TP12消費(削減可) <b>ソーサリーLv3以上で習得可能。アビリティスロット一つ占有。</b> 複合/指名/単体/選別

生命の腕輪は、現在のアミュレットの源流ともいえる存在で、この腕輪の研究により現在のアミュレット文化が成立している。マジックアイテム史を学んでいる人にとっては非常に価値のある歴史サンプル。ライフアミュレットと違い、一日の使用回数に制限が無く、かつ生死判定が失敗した状態からリカバリーできるため、ライフアミュレットより強力な源流アイテム。

転生の薬は、世界樹から稀に咲く花のエキスを抽出して作る秘薬で、エルフのみが作ることが出来るとされていたが、その製法は既に失われているようだ。転生のサーガと呼ばれるサーガが有名。異世界からやってきた勇者が、自分の世界に戻るための唯一の方法としてこの転生の薬を求めるサーガで、最後にはこの薬を手に入れるのだが、薬を飲むよりもこの世界で生きることを選んで話は終わりになる。

## 星空と森の拾い物（？）

深海の蒼光 3/26 21:33~23:34

一行が鑑定作業をしていると、外で子供たちが騒いでいるのが聞こえた。始めて見た星空に驚いていたようだ。しかし、10分もするとすぐに慣れてしまったようだ。そんな騒ぎの最中にセフィはピーターに渡したウェンディの遺髪を返して貰う。あまり人に見られないように宿舎の二階を使って鑑定されたばかりのラストエリクシャーでウェンディを再生した。

遺髪にばしゃ、と液体をかけると、遺体がうごうごとうごめき始めました。遺髪が伸びて頭皮をつくりはじめ、うごうごと血管が伸び始めて頭骨と脳みそ、眼球が同時に精製され始めます。そこから背骨が蛇のように伸びて頸椎を生成、頸椎に付随するように、腸、胃、心臓、肺などの各種臓器が生成され、肋骨で覆われた後に、生えるようにして左右腕部、骨盤、大腿骨からつま先までが形成され、ひもが結び合わさるように筋肉が形成。最後にはむき出しの筋肉を肌で包んでいき、ようやく女性らしい姿になり、体が落ち着きました。

再生されたウェンディだったが遺髪からの再生だったので、死の24時間前からの記憶が欠落していた。改めてネバーランド砦の最年長で統括をしていると名乗ったウェンディ。マルスから来てモトを討伐しに行くことを説明したが、蘇生直後の混乱でよく理解できない様子ウェンディ。そうしている間に外でウェンディの匂いを嗅ぎ取ったフックが押し入ってきた。再会でツンデレぶりを発揮するフック。そのままウェンディは奥の部屋で休息することとなった。

フックはウェンディを救った一行に随分大きな借りができたと言い、一行へ協力することとなった。セフィはここぞとフックに南の街マルスの者と言葉を交わして欲しいと言い、フックはそれを了承した。さらにフックにレッドキャップ攻略法を訊いた。

レッドキャップは耳に頼る傾向があり、狩りに出ている森の中以外ではほとんど周りに注意を払っていない。五感はやや人間程度で、耳に頼りすぎ。

何が来ようと自分たちの耳の良さなら分からないはずがないと思っている。拠点に潜り込めば音さえ立てなければ有利になれる。

レッドキャップは頑丈で体力がある。眠らせることはできないが、即死や昏倒なら狙える。狩りに出ているときにはアミュレットを装備しているが、砦の中ではまずアミュレットは身につけていない。

音を立てなければ背後に回り（レッドキャップの後頭部を）殴れば気絶させられる。

ここで、他の子供達にウェンディが生き返ったのを説明して欲しいとフックに言ったミレイユだったが、フックはウェンディが森で迷子になったのを拾われたと思こんでいる。子供たちに信頼を得るためにも、フックの誤解を放置しても良いのかと悩んだミレイユだったが、ウェンディを生き返らせたという話を押し通すと却って嘘つき呼ばわりされると判断して、誤解をそのまま放置することにした。そして一行は休息に入った。

## 続・砦の朝

深海の蒼光 3/26 23:34~3/30 22:34

翌朝、ウェンディはピーターとフックから事情を説明されたようだ。身体の調子も生き返ったかのように良いらしい。ウェンディはもう南を目指す必要はなくなったと言い、一行に協力してくれることとなった。フックによるとウェンディは森林戦のエキスパート。隠密行動、射撃、トラップなどができるらしい。洞窟の中など暗い場所は平気だが、フックのような闇視の能力はない。ウェンディに『王の船』のことを訊いたがよく分からないらしい。

出発時の隊列を以下のように設定した。

【偵察隊：マール・アグリッパ・マサヨシ】 -20m- 【本隊中衛：ノーウェン・ミレイユ・ソニア・ルルカ】 【本隊後衛：ディル（リオ）・セフィ（フォルトゥナ）・アリーヤ】

出発時には宝物庫で入手した装備は一人一種類一個しか持てない。（各自、アミュレット、スクロール、ポーション、魔唱石、薬瓶を一つずつ）これらアイテムを一人ずつに再配布した。

### アイテム再配布

アグリッパ	生命の腕輪	魔唱石	命のポーション	転生の薬	口伝・疾風
アリーヤ	生命の腕輪	魔唱石	覚醒の目薬	テレパシーエキス	ゾルトラーク
セフィ	静謐のチョーカー	静謐の魔唱石	魔力のポーション	命の水	秘伝・調合
(フォルトゥナ)	静謐のチョーカー	死者の魔唱石	魔力のポーション	バビロンの盃	口伝・血操
ソニア	生命の腕輪	魔唱石	不死の塗り薬	テレパシーエキス	ゾルトラーク
ディル	情熱のネックレス	魔唱石	命のポーション	若返りの薬	秘伝・調理
(リオ)	情熱のネックレス	炎の魔唱石	不死の塗り薬		コメットストーム
ノーウェン	情熱のネックレス	炎の魔唱石	命のポーション	転生の薬	口伝・血操
マサヨシ	生命の腕輪	魔唱石	英雄の秘薬	若返りの薬	秘伝・調理
マール	生命の腕輪	魔唱石	英雄の秘薬	テレパシーエキス	口伝・疾風
ミレイユ	生命の腕輪	炎の魔唱石	覚醒の目薬	バビロンの盃	服従の天秤
ルルカ	静謐のチョーカー	没頭の魔唱石	不死の塗り薬	命の水	秘伝・調合

なお、フックを救出に行った際の戦闘でレッドキャップから回収したリターン・ガラリのスクロールは所持制限がかからない。午前八時だが、マルスの門の音は聞こえない。フックはマルスの門が二回開閉したのを知っていた。一回目はPC一行が通ったときの開閉音で、二回目は一回目の夜営明けの時に聞こえてきた開閉音。誰が通ったのかは分からない。

次にピーターとフックとウェンディにレッドキャップの集落を襲撃して王の船を奪う手伝いを依頼した。ウェンディには経路確保の補助を、ピーターには王の船を動かすために、フックにはピーターのお目付にした。留守番は年長の子供たちに任せておけるようだ。セフィは王の船についての伝承を思い出す。

王の船は、バビロンの秘宝と呼ばれる蔵の中から出てくる船の事。目的地を告げるとひとりだけで動き始め、その船は魔物も流氷も寄せ付けず、どこへでも進むと言われている。東洋ではこの船の伝説が変化し、アマノトリフネに、帝国では宝船の伝承につながっているようだ。用いるにはギルガメスの血筋を引くものが手を触れる必要がある。

やはり、ピーターの手が必要なようだ。

ディルとノーウェンの鎧は歩くと音が鳴るので、武器庫に音の鳴らない鎧を借りに行った。

オリハルコンチェーン オリハルコンのチェーンメール。重さ10、ベース30、鎧補正はチェーンメールと同じ。ダメージ-2。ちゃらちゃら音がしない。

ディルとノーウェンは鎧を着替えて、元の鎧を砦で預かってもらった。ディルがオリハルコンチェーンを実際に着て歩いてみると確かに音がしなかった。ルルカは武器庫に箒を探したが、見つからなかった。

ピーターたちは砦を長期間不在にすることができない。長くても五日間が限界のようだ。

ソニアも妖精用の鎧を探してみた。

オリハルコンメッシュ 重さ1 ベース15 布属性、クリティカル値が金属鎧として変動 ダメージ-1 術式理解+1（マジックユーザー系共通）

良い性能の鎧が見つかったのでソニアも鎧を着替えた。アリーヤは銃を探したが見つからなかった。

ついでにミレイユも武器庫に矢を探し、リオは盾を探し、ルルカは剣を探した。

オリハルコンの矢筒 中から魔法の矢が出てくる矢筒。命中・ダメージ+1、オリハルコンの矢じりがついている。矢は無限に出てくる。使い捨て。

オリハルコンの盾 命中ペナルティ無し、回避+1のラージシールド。重さ3。

剣 片手剣 重さ10 ベース30 突き/刺し 振り/切り 命中・ダメージ+2 オリハルコン製

ミレイユとリオとルルカは見つけた装備を身に着けた。マサヨシは小太刀を探してみたが、アヅマで使うような武器は刀しかなかった。（銃などの）近代武器や（アヅマなど一地方でしか使っていないような）局地武器は収蔵されていないようだ。

隊列を再度定義し直した。

【偵察隊：マール・アグリッパ・マサヨシ】-20m-【本隊中衛：ノーウェン・ミレイユ・ソニア・ウェンディ・ルルカ】【本隊後衛：ディル（リオ）ピーター・フック・セフィ（フォルトウナ）・アリーヤ】

セフィはフックに撤退用の『リターン・ガラリィ』のスクロールとその魔力源として魔唱石（20点）を一つ渡した。ミレイユは途中で『テレパシーエキス』を飲むつもりであることを話し、三人にハンドサインを教え込んだ。セフィがピーターを餌で釣ったところで、一行はレッドキャップの集落へ向けて出発した。

## 異変

深海の蒼光 3/30 22:35~3/31 0:13

ルルカが使い魔のフクロウを飛ばし、マールたち偵察隊がクリアリングをしながら前進していく。

すんなりと海岸沿いの分岐点まで到着したが森が静かすぎた。ネバーランド砦の方向を向いても変化はない。マールは森の動植物に訊くが、昨日から誰も通っていないという。森の中の音に異常はない。動物がいなくなったわけでもない。

これまでの状況から、昨夜に魔法の闇が消失してから、レッドキャップは外出をしていないと判断した。

マサヨシは上空に浮き千里眼でレッドキャップの集落の方を見ると、体温のあるモノが動いている様子が見えなかった。動物の熱源は見えるがレッドキャップらしいモノは見えない。

警戒しながら再び前進をすると、夕暮れにレッドキャップの集落に到着した。集落は静まり返っている。マールは血の臭いを感じた。大量の死体がある気配を感じた。周辺を警戒しながら集落に入ると中央広場にレッドキャップの死体が積み上がっていた。原型をとどめている死体は少ない。

一行は死体を調べてみたが、強い力（パンチ）で叩き潰されたり（腕力で）引きちぎられていたりする。それでいて、死体は丁寧に積み上げられている。まだ死後半日くらいしか経過していないように見える。

積み上がっていた死体を見聞していると、一際大きく勇猛な身体つきで仮面をつけた雄のレッドキャップが歩いてきた。他のレッドキャップの死体を運んできたようだが、死体を取り落とし、怒りの雄叫びをあげると襲いかかってきた。

レッドキャップヒーロー（進化） Lv18 レッドキャップの英雄。レッドキャップの中でもひとときわ戦闘力の高い、長のような位置に存在する個体。集団行動するレッドキャップの守り神として部族を常に守る役目を司っている。HP500/500 回避32 物理防御32 魔法抵抗34 生命抵抗36 受動防御5以下 不眠 即死無効 昏倒無効 精神作用無効 移動に高低差無視 移動阻害無効 敏捷40



## 圧倒！レッドキャップヒーロー

深海の蒼光 3/31 21:26~23:41

レッドキャップヒーローは見た感じ、アイテムを持っているようには見えない。戦闘中に白飛竜でピーターたちを逃がすのは難しい。ミレイユはレッドキャップから先手を奪おうとしたが敢え無く敗北した。

### 1ターン目

セフィは【ダブルキャスト】を宣言し、【巨人のブルース】を舞い始め、【ダークブリズン】をかけたが受動防御に阻まれた。アグリッパはショートルに【ダークソード】をかけて【炎帝舞踏】を舞う。マールは【音無し+】と【変幻殺法・林】の構え。ミレイユは【ハンティングモード】の構え。ディルは【騎士宣言】をして【集中】状態に入った。マサヨシは【平正眼】の構えを取り【負狼の型】から【最終狼牙 奥義流星剣】を繰り出す体勢になる。ノーウェンは【竜騎士宣言】をした。

このまま戦うとピーターたちを守りきれないと判断したセフィはピーターたちをスクロール（リターン・ガラリー）の力で砦に帰した。

先手を取ったレッドキャップヒーローは地面を踏み割ることで石礫を飛ばしてきた。

マールは難なく回避。ルルカは【ブロックパリア】で振り払った。セフィは【グランドディフェレクト】で防御。アグリッパは【ガード】でソニアのカバーに入って被弾したがセフィの【ブルースフィア】でダメージを軽減。ディルとノーウェンは被弾したが【（竜）騎士宣言】によりダメージを半減。アリーヤとミレイユは着弾したダメージを【ブルースフィア】で軽減。マサヨシはもろに被弾。マサヨシとセフィとミレイユとアリーヤはプロテクトアミュレットを割った、

今は情報が足りないと判断して逃亡の準備に入る中、マサヨシだけは攻撃の体勢に入っていてげ羽檄を取りやめられない。マサヨシの繰り出した【最終狼牙 奥義流星剣】はレッドキャップヒーローにかすり傷を負わせた。それ以外の全員が通常移動で逃亡にかかる。ここで隊列を宣言。

逃げる方向←【マール、ミレイユ、アリーヤ】 【ルルカ、セフィ、ソニア、ノーウェン】 【マサヨシ、ディル、アグリッパ】 →赤帽方向

### 2ターン目

アグリッパがその場で【炎帝舞踏】を舞ってZOCを形成した。

レッドキャップヒーローは大岩を投擲。大岩は高さ20mのZOCを飛び越えて一行に頭上から降り注ぐかと思われたが、セフィが【カウンターサイクロン】で大岩を押し返した。レッドキャップヒーローに大岩が当たってかすり傷をつけた。

この隙にマサヨシ以外は集落の入口まで退避し戦線離脱した。マサヨシは【飛天】で上空に上がった。

### 3ターン目

マサヨシが全力宣言で逃亡の準備。

レッドキャップヒーローが手持ち武器を投擲してきた。マサヨシは【愛は無敵】でダメージを受け流すと全力疾走して戦線を離脱した。

## 善後策

深海の蒼光 3/31 23:43~4/2 22:04

一行はレッドキャップの集落の外縁部でレッドキャップヒーローの様子をうかがっている。焚き火の音が聞こえてきた。上空に煙が立ち上っている。

一行はいったんマルスに戻ることを検討したが、それではネバーランド砦が危険になると判断して思いとどまった。マールが近くの虫や木に話を聞いたところ、ひよろ長い男と猫娘が来て、ひよろ長い男がとても大きくなり、動物はみんな殺されたいらしい。二人は海の方に向かったという。

一行はそこで海岸近くの宝物庫に向かって北上した。移動しながら前方と後方に警戒を張り巡らせていたが特に何事も起こらずにあっさり宝物庫に到着。これまでに見た中で一番大きな宝物庫が出現した。

マールとアグリッパとマサヨシで前方警戒しながら進んでいくと、アグリッパが宝物庫の壁に蜘蛛のようにへばりついている謎の魔法生命体を発見した。熱を体外に出さず隠密性が高く簡単には見つからないものようだ。壁と同化していて手足が人間の1.8倍ほど長く顔面はツルツルでなにもない。ひよろ長い人型ではあるが、虫や木はこれを指して人間とは呼ばないだろう。アグリッパはそれを判別した。

実験体255号 Lv11 とある科学者によって合成された魔法生物。人間の身体二体と、擬態能力を持つ生物を掛け合わせて皮膚が移植されるなどの非人道的な改造が施されている。魔法生物とはいうが、実は素体の人間は、体の腐敗防止の為にまだ生かされており、苦しみを続けている。顔が無く、発声器官を奪われているためにその苦悶の声は誰にも聞こえてはこない。 HP50/50 回避32 魔法抵抗32 物理防御11 姿が発見されていない場合奇襲が必中する 不眠 精神作用無効 奇襲待機時奇襲するまで行動不能

現状、実験体255号は奇襲待機状態で、誰かが射程距離内に入るまで行動はできない。マサヨシは仙道の制約により255号を殺すことはできない。転生の薬やバビロンの盃は飲ませないと効かない。薬を使うならアゾット剣を使って投与する必要がある。実験体255号は人型ではあるが、形状が常軌を逸しているため（聖堂）捕縛術を使うことはできない。

ここで、これまでの状況を総合して、レッドキャップ虐殺にはビッグセブンにいたエーゲッツが関わっていて、ネバーランド砦に向かった可能性があると感じた一行。マサヨシが上空に上がってネバーランド砦の方を見ようとするが煙に邪魔されて見えない。また、バビロンの盃では実験体を救えないことにも気がついた。

そこで、一行は実験体255号を放置してノーウェンの白飛竜でネバーランド砦へと急行した。

## 外道とギルガメスの末裔

深海の蒼光 4/2 22:06~4/5 21:52

白飛竜で砦に戻ってみると、砦には火の手が上がっていた。砦の中は数々の気味の悪い化け物が跋扈して、子供たちが応戦しているのが分が悪そう。中庭でも戦闘が発生している。ウェンディとフックが戦闘不能、ピーターはまるで性格が変わったかのようにダイヤモンドの鎧を身に纏って戦っている。箆巻きにされたテレサをぶら下げた巨人を従えた、ひよろ長で眼鏡をかけた白衣の男がいた。エーゲッツだった。

一行は白飛竜で滞空しているノーウェン以外は降下して、ウェンディとフックを守る位置につく。レベル12以上の魔法生命体が30体以上蠢いている中、エーゲッツに対してセフィをはじめとした一行が交渉を始めた。（詳細な交渉の経過は深海の蒼光 2021/4/2 22:26~23:57のログを参照）

交渉している間にルルカはエーゲッツの従えている巨人を判別した。

実験体455号 人間を十二体組み合わせ合わせて筋繊維を縫合して作成された実験体。巨人の骨格を用い、人間の筋繊維を編み込むことで、どこまでの膂力が実現できるかという実験処置が施されている。筋繊維は常に崩壊と再生を繰り返しており、通常の筋肉痛の何倍もの痛みを常に味わい、実験体の素体が苦しむ構造になっている。筋繊維の崩壊を防ぐために実験体のうち約五人が生かされており、痛みは五分割され、ぎりぎり発狂しない痛みをそれぞれが引き受けて、常に苦しみながら命令に従うことを強要されている。Lv20 HP600/600 回避10 魔法抵抗40 物理防御42 受動防御5 防御無視を無視 不眠 精神攻撃無効 即死無効 行動阻害無効 筋力150 あらゆる膂力判定に自動成功

何としても王の船を使って海峡を越えたいエーゲッツと、難敵レッドキャップヒーローをエーゲッツに倒させ子供たちとテレサを救いたい一行との間の交渉は難航したが、王の船を確保しつつこれ以上犠牲を出したくない一行が折れて、エーゲッツの提案による血の契約を交わすこととなった。

血の盟約書：深層領域に存在する魔界貴族「天秤」に請願して契約を交わす古の契約書。この契約書に書かれた契約に反すると、途端に魂を奪い去られロストする。（このロストは決して回避できない）この契約は血判を押した二者間で有効となる。契約期間が終了すると燃えてなくなる。

エーゲッツ要求	アルマーヤ海峡を抜ける王の船に乗せる。現時点から海峡を越えて一時間経過するまでの間は休戦とする。この契約を血の契約とする。
ホオヅキ側要求	レッドキャップヒーローをエーゲッツが倒す。ネバーランドの子供たちとテレサを解放する。休戦期間中に現れた敵の撃退にエーゲッツが協力する。レッドキャップヒーローの死体にエーゲッツとその配下はいかなる干渉もしないこと。

ディルが契約に不正がないかを確認し、ミレイユが契約事項に異がないかを確認した。

一行を代表したセフィとエーゲッツが互いに血判を押して契約をすると、二人の胸から炎が現れて天秤に乗った。この炎は二人の魂の重さを示していて、契約を破った側の魂は軽くなり天秤に奪われるという。

契約が締結されるとエーゲッツはボディガード代わりの実験体455号以外の実験体たちをシャドウサーヴァントに格納し、鎧の力が切れたのかピーターは昏倒。子供たちは半殺しだったが命に別状はなく後遺症も残らなさそう。エーゲッツは無駄にホオヅキの冒険者のヘイトを煽ることを避けたようだ。セフィはテレサに食事を与えた。

ディルとノーウェンは鎧を自分のものに替えた。一行は子供たちを集めてソニアの歌で傷を癒やす。そうしている間に大きなプレッシャーが接近してきた。レッドキャップヒーローが近くまで来ている。

## 逆襲と食事

深海の蒼光 4/5 21:53~23:47

契約に従い、エーゲッツはレッドキャップヒーローを迎撃しに森の方へと入っていく。それを見届けようと、セフィとマサヨシとルルカとマールとディルがエーゲッツの後からついていった。

レッドキャップは集落の全員を殺された恨みを晴らしに来たから勝負をしろと古代巨人語でエーゲッツに吼えた。それからレッドキャップヒーローはエーゲッツに飛びかかったが、それはエーゲッツに届かなかった。レッドキャップヒーローの身体はエーゲッツが放った見えざる手（急性心筋感染新型炭素ウィルス）に冒されていた。エーゲッツに歯向かった時点でレッドキャップヒーローの体内の陰性だったウィルスが陽性に变化するらしい。全身に回るまでに30秒しかかからない。さらにエーゲッツは取り出した試験管からウジ虫のようなものを出す。レッドキャップヒーローの身体に付着したウジ虫は急速に増殖して骨になるまで身体中を食い尽くした。ウジ虫は試験管の外に出ると餌がなくなった時点で餓死するものなので安全に問題はないとのこと。

エーゲッツは全てはモトに認められ受け入れられるためだと語る。早く海峡を渡りたいエーゲッツだが、既に夜なので出発は次の日ということになった。フックもウェンディもあつという間にレッドキャップヒーローが倒されたのが信じられないという様子。砦の建物に被害はなく、レッドキャップヒーローの骨もそのままにすることとなった。

海峡を越える時にはフックとウェンディにもついてきてもらうこととなり、テレサも食事をするとすぐに寝てしまった。一行は交替で休息をとり、その間に起きているメンバーがエーゲッツと少し話をした。

エーゲッツはマルスの街を通過する時に卑劣漢と呼ばれたが、ゴブリンの街の様子には興味がない。知性があっても、それを与えられただけのゴブリンを下等生物だと思っている。

エーゲッツがモトにこだわるのは浪漫ゆえ。狭い世界で叡智を磨いても萎んで消える。今の世界の枠を超えて知識を追い求めたい。知性を与えられただけの実験動物では終わりたくない。

他人を理解するなどできるものではない。

**結局、エーゲッツは眠らないどころか立ったままだった。**

マールとマサヨシが朝食を作りエーゲッツ以外に振る舞った。エーゲッツは別途食事を済ませた。海峡を渡ったあとでキャロリーメイトのレシピを教えてくれるらしい。エーゲッツがやたらと出発を急かす理由はよく分からない。

## 出発

深海の蒼光 4/5 23:48~4/6 22:10

朝食後、【王の船】があるという宝物庫に出発した。宝物庫につくとエーゲッツに見張りについていた実験体255号を回収させた。とぼけるエーゲッツに海峡を渡るまでに彼が仕掛けた何かで被害が出たら休戦条項違反とみなすとミレイユが言う。マサヨシは海峡に何か未知の危険があるとエーゲッツが知っているのではないかと問い詰めるが、エーゲッツは知るはずもないと答えた。扉を開けるにあたって罫の有無を調べたが特に罫もない。扉は継ぎ目もなく中央に小さな石板があるのみ。ピーター以外では開かない様子。ピーターが石板に掌を当てると、扉が奥に引っ込んで小さな通路が出現した。通路の先は曲がっていて見えない。この宝物庫はエーゲッツの言ったような指紋（手形？）認証になっていたようだ。一部の王侯貴族のみが知っているが、人間の掌には固有の模様があり、この世界の人間は指紋も遺伝するらしい。

護衛をつけたピーターたちを先頭に扉の奥に入っていった。

## 王の船

深海の蒼光 4/6 22:10~4/7 21:51

宝物庫の奥へ進んでいくと、広めの部屋に出た。椅子と舵のようなものと奥には洗面所のような小部屋がある。舵のようなものにはやはり扉と同じような小さな石板がついていた。ピーターに石板に触れさせて『北の海峡を渡れ』と言わせたところ、少し時間が経ってから部屋の中にもいくつも光の筋が走って、オペレータらしき声が聴こえてきた。音声によると1213年ぶりの起動だったらしい。

### オペレータ音声から分かったこと

オペレータ音声はピーターをDNA照合と指紋認証により、入植ID120019、ギルガメス・ペトロ・ダグラスの肉親であると判断した。

この船の正式名称は移民船テラ2級12291艦ハーメルン所属の僚機ホライズンという。オペレータ音声はマスターコンソール（コントロール？）疑似人格“マチルダ”というらしい。

地下の素体船体が損傷しているため、周囲の鉱物を利用して一時間ほどかけて修復を行う。地下には換装するための複数の船体があるようだ。流氷を避けるための専用船体を使用するらしい。（宝物庫はコクピットブロックか？）

母艦ホライズンに連絡を行っているが通信が途絶している。ホライズンの燃料の残量が少ないため母星『地球』に戻るための燃料が71%不足している。

“マチルダ”はピーターの言葉は理解できる（言語以外の部分で入力を理解している可能性がある）が、その他の人間が話す共通語は理解できていないらしい。銀河標準語とニホン語で話しかけても無反応だった。（呼びかけた内容が返答しづらい内容だった可能性もあり）共通語を70分で解析すると言った。

周辺地形の情報を得るために人工衛星『ネバーランド』と交信を行い、周辺地形を検索して、『海峡』という言葉に該当する地形を特定した。また、同様に『竜』という言葉からモトの位置を特定し、データを出力した。

食糧と飲料を補給するために周囲の生物を取り込んで合成したらしい。所要時間は30分ほど。

地下の船体と合体した宝物庫の奥の部屋は海上に出た。海上に出ると平べったい銀色の金属の方舟のようなものになっていた。エーゲッツはこの船については知っていたが、船には興味がないらしい。船について質問してもはぐらかすだけに終始。エーゲッツ自身、モトの友人になれるとは思っていないらしい。いつものような悪意は見えないが何を考えているかは分からなかった。ピーターが喉の渇きを訴えると、“マチルダ”が炭酸飲料『コーク』を人数分出してきた。それぞれ違った反応をしながら飲んでみると、船体の修復が完了したとアナウンスが入り、船が移動を開始した。船の正面には透明の力場が発生して流氷をかき分けて進む。到着まで12時間半かかるらしい。流氷をかき分けているせいか船の速度は普通のキャラック船とあまり変わらない。(16~20km/h) “マチルダ”に行き先と竜(モト)について情報を出させた。

骨龍帝モト Lv58 HP3800/3800 回避30 物理防御40 魔法抵抗40 生命抵抗無効 受動防御5以下 あらゆるステータス異常無効 夜の戦慄 不死属性 飛行能力 生命操作可 特定の術で行動不能

マチルダ「特定の術式、惑星ファンタジア内で行使可能な概念武装によって、行動不能になるようですが、概念不足の蘇生組成が不明です。読み込みが出来れば解析が可能です」

表示された地形図では、海岸からモトがいる居城までは一本道で迷うような要素はない。海岸から視認できるともいう。仮眠室(カプセルベッドで温度調節や柔らかさ調節や枕の調節もでき、コークも飲める)の修復ができたようなので、交替で休息をとった。エーゲッツは眠らずに立ったままだった。

翌朝になると疑似人格が円滑な意思疎通を目的に魔法生命体のようなものを作っていた。

共通語の会話も可能になり、何かを合成して作った朝食がでてきて、

一行はそれぞれ食べた。

今度はピーター以外の話も聞けるようになったようだが、

権限が移譲されない限りピーターの命令が優先される。

食事を摂っている間に海峡の対岸に到着した。

モトの居城まで距離3211mで高低差211mとのこと。

エーゲッツはそそくさとモトのところへと出発した。

モトの居城の内部構造の解析はできなかった。モトの起源も不明。攻撃手段の想定もできなかった。

一行は健康面に問題がないかをマチルダに訊いたが、医療部門の再構成には5時間が必要だった。

その直後、寒気を訴えたテレサの言葉が引き金を引くかのように全員が未知の病に倒れた。



## 診断名・新型インフルエンザ

深海の蒼光 4/7 21:51~4/8 0:22


疾病学の心得のあるセフィとルルカとミレイユ以外はピーターたち三人とテレサも含め全員が未知の病に倒れて行動不能となった。セフィとミレイユは持ってきていたサルファ剤を飲んで少し回復し、リオが持っていたサルファ剤をディル、ピーター、フック、ウェンディ、テレサが服用した。セフィは苦しい中で病気の内容を思い出した。

新型インフルエンザ：季節性の流行する風邪。ひき始めから発症、深度進行までが早く、発症後、いきなり深度4の状態から開始する特徴がある。潜伏期間は12時間。高熱、嘔吐、呼吸困難、行動不能を伴う。 病気強度14、致死深度5、深度判定は8時間ごと。一度罹患すると、同じウィルスには一年間の免疫が発生する。変異種には免疫無効。罹患した場合、他人に伝染させるリスクが約一週間ある。一週間以内はマスク・三密(密閉・密集・密接)の回避・うがい手洗いを推奨。

マチルダの力も借りて、衛生処置に使用する物資を揃え、全員をカプセルベッドに寝かせた。さらにセフィが持っていたサルファ剤の残りをマチルダに渡してコピーの製造を依頼した。コピーの製造には医療部門の再生が済んでから一時間強が必要だった。その間にエーゲッツが風邪を感染させたことを示唆する映像をマチルダが再生。セフィはカラフルドロップスを舐めてさらに回復すると、全員分の看病を一人で引き受けた。そしてサルファ剤のコピーが完成してサルファ剤を飲んでいなかった全員にもサルファ剤が行き渡り、さらにセフィの看病で運の悪かったノーウェン以外の深度が下がる。翌日、ルルカとミレイユが全快し、遅れて全員が全快。病を押して寝ずの看病を続けていたセフィはグッスマンをもらって睡眠に入った。この時点で海岸に到着してから30時間が経過していた。モトの居城の方は特に外観上の変化はない。エーゲッツは既にモトの居城に入っていた。現在の陸地（アルマーヤ海峡の対岸）には王の船に乗ってきた以外に生命は存在しない。（このとき、植物は生命としてはカウントされていなかったようだ）新型インフルエンザについての研究論文とキャロリーメイトのレシピを入手。王の船の武装に関しては開示を拒否された。王の船から一度出ると、ピーターの許可がないと再び乗船することはできない。ピーターは帰りの船に乗せてくれることを約束した。船の外から呼びかけても大丈夫なようだ。テレサはモトの居城までついてくることとなった。

惑星調査団の謎		深海の蒼光 4/8 22:14~23:22
引き続き、王の船の疑似人格“マチルダ”へ質問して情報を引き出そうとする一行。		
マチルダからは、ピーターの許可があれば、艦の防衛とロックが掛かっている情報（機密事項）以外は開示できる。		
王の船にエンキドゥという名前の乗員はいなかった。		
『地球』とは太陽系第三惑星のこと。地球、アース、テラと呼称されている。それ以上の情報は最重要項目としてロックされている。		
『ラブフォーン』と『フルナ・ユキノ』の名前は記録になかった。		
『惑星ファンタジア』とはこの世界のこと。この惑星に『惑星調査団』が入植する時に便宜的につけた名称。		
質問責めをする一行をよそにピーターたちはマチルダに出してもらったハンバーガーを食べている。テレサは珍しく食事も忘れて考え事をしていた。ディルが聞いたすと、テレサは違和感を感じていた。彼女も最初は違和感の正体が分からなかったが、ルルカが調査団は何回来ているのかと聞いたところで、違和感の正体に気がついた。マチルダは惑星調査団のことを『第〇次惑星調査団』とは言わず、ただ『惑星調査団』と言っている。つまり、マチルダは最初の惑星調査団に関係があるということになる。調査団については、これまでに四つが確認されている。（ただし、第四次惑星調査団は別の世界線の未来に来訪している）		
惑星調査団（他GSの情報も有り）		
第一次	王の船を含んだ調査団。ギルガメス・ペトロ・ダグラスが所属。1259年前に到着。到着時には地表面はデバイスリフレクターに覆われた赤い世界だった。閲覧注意。これをナナミ・エリが『人類』が居住可能なように改造した。（？）1213年前に王の船は活動停止。	
第二次	フルナ・ユキノが所属していた調査団。約500年前の滅びの七夜よりも後に来た。ドルイドの技術を確立。フルナ・ユキノについては第17.5話『紅蓮の命運』を参照。 <a href="http://fragship-hd.sakura.ne.jp/hoduki/cgi/ho_up/img/966.pdf">http://fragship-hd.sakura.ne.jp/hoduki/cgi/ho_up/img/966.pdf</a>	

第三次	アンブロシア占星団（エリザベートが所属する影から世界を動かす組織）を作った。天秤の遺跡ではアンブロシア占星団の動きにより分岐する未来が四つ示された。（第17話『虹色の英雄』海中の恋歌 2018/7/2～8/1、深海の蒼光2018/7/5）この分岐はアインスがエリを唆して生み出したと言われている。（第18話『神の造物主』より） <a href="http://fragship-hd.sakura.ne.jp/hoduki/cgi/ho_up/img/985.pdf">http://fragship-hd.sakura.ne.jp/hoduki/cgi/ho_up/img/985.pdf</a>
第四次（?）	上記天秤の遺跡（第17話『虹色の英雄』）で見た分岐世界のひとつに現れた侵略者。黄色いクリスタルでレベルを無効化してきた。
ギルガメスは1213年前に老衰死した。遺体は土葬された。墓地の座標の特定には9ヶ月ほどかかる。	
デバイスリフレクターの情報にはプロテクトがかかっていた。永久に解除できないらしい。	
スィンカーについての情報はなかった。	
入植前の惑星の状態についてはプロテクトが掛かっていない画像情報が一つだけあった。	
一行のうち、ソニア、ディル、マール、ルルカ、ミレイユは好奇心と興味に突き動かされるままにその画像情報を見てしまった。	

<b>閲覧注意！ 禁じられた画像</b>		深海の蒼光 4/8 23:22～4/9 21:31
<p>その画像は、一面の赤い空、赤い海、そして遠くに捲くように存在する雲、その向こうに存在する巨大な無数のキノコの姿だった。画像を見た五人は酷く酷く懐かしい印象と、激しい焦燥感と、深い悲しみと、帰りたいという望郷感にさいなまれた。目標値27の精神抵抗判定が発生。ソニアとルルカはその思いに抗えず発狂した。画像の映っているモニターにひたすら入り込もうとして、入れないことを理解できない。テレサは平然としていた。</p>		
<b>画像閲覧による影響</b>		
抵抗失敗かつ【赤の洗礼】済	筋力、器用、敏捷-10、精神-10、知力+12（40を超える）、マナプール20点獲得、レベルが一番高い職業の限界突破を1獲得。（限界突破は累積する）【赤の洗礼】が【深淵の限界突破】に書き換わる。その際、髪が真っ白になる。	
抵抗失敗かつ【赤の洗礼】無し	精神-10、知力-6のペナルティを受ける代わりに、マナプールを20点獲得。	
抵抗成功	精神-3のペナルティを受ける代わりに、マナプールを5点獲得。	
なお、低下したステータスは種族最低値より低くはならない。失ったステータスは後日リリーナのトレーニングで取り戻せる。マナプールは忍法にも使える。		
ソニアとルルカはモカ・エスタロンを投与されて正気を取り戻した。テレサによると、これは罪のない世界。この星の根源の姿。穢れの無い世界。人間はこれを見るたびに、ここへ帰りたいと常に願いつける。原罪の故に、既に戻る事が出来ない始まりの時でもある。		

神学では原罪とは、人間がもともと持つ、罪を犯そうとする性質であり、人の弱さでもある。しかし、この惑星（世界）においては別の意味を持つ。それはこの惑星（世界）に人間という異物が入ってしまったこと。この世界の始まりこそが罪の始まり。テレサはこの世界のあり方が罪なのかどうかを始まりから見続けている。結論はまだ出ていないが、天秤の遺跡にいた他のテレサたちは罪だと断じているという。

## 続・惑星調査団の謎

深海の蒼光 4/9 21:39~4/10 0:27

既にエーゲッツと後の契約は完了。衝撃映像騒ぎが一段落して、またマチルダへの質問が再開された。その間にディルは落ちた筋力に合わせて鎧の腰と脚の部分を取り外した。

ギルガメスと骨のない竜エンキドゥとの接触記録はあるがプロテクトがかかっているため開示できない。

ギルガメスが残した十二箇所の倉庫の、相対位置の算出には9時間ほどかかるらしい。出発後に算出を開始するように依頼した。

ギルガメスとナナミ・エリの日誌の開示は個人情報なので拒まれた。

ナナミ・エリの所在はロストしている。高度12300mから身を投げたが遺体は見つかっていない。優秀な学生で次世代確保用学徒として乗船していた。強制されたわけではないようだ。

マチルダにこの星の地図を出させたが、現在と全く地形が違った。マチルダに対して現在の地形図を渡した。現在の王の船の位置と、ナンジェイ島の位置と第二次調査団終焉の地（ヴィラン）の位置を教えた。移動に必要な時間は不明。

マチルダに、マチルダ以降に来た調査団の数は二つだと回答した。

ここで、ピーターに骨のない竜について情報を出させるように言ってもらえると、マチルダはピーターの脳内に直接情報を書き込んだ。ルルカは下着をマチルダにクリーニングさせた。

骨のない竜エンキドゥはギルガメスの親友で変態仲間だったらしい。エンキドゥは異世界から召喚されて迷っているところをギルガメスが拾ったようだ。

ギルガメスはエンキドゥから異世界技術を提供してもらい、それで王の蔵や様々な超兵器ができたようだが、細かいところはマチルダに丸投げだったらしい。直前の記録は母船にアクセスしないと参照できない。マチルダが記憶している母船の位置はサンク・トラガだった。





『概念解析と概念確定、概念組成を再編成することで、術式を組成し、これを魔法とす』という記録があるが会話の七割以上は意味がないらしい。

エンキドゥについての情報がピーターから語られたが、マチルダはその情報の直接の回答を拒否した。ピーターを介さないと情報を開示できないらしい。

エンキドゥは無害な存在には見えない。『元の世界に帰りたい』と連呼するので、モトというあだ名がついたらしい。ピーターが見せてもらった範囲ではエンキドゥを元の世界に戻す方法は見つからなかったらしい。その方法の研究は子孫に丸投げされたという。ウェンディによると王家は代々転生についての研究を行ってきたがいつしかその研究はしなくなったらしい。記録は残っていないが、(ネバーランド砦の)長老は完成したかも知れないと語っていたという。

ピーターはマチルダから言語情報をダウンロードされた。(日本語、英語、銀河標準語、中国語、アラビア語、韓国語、ラテン語) 共通語のインストールには時間がかかるらしい。ミレイユは【磔刑丘・真】をマチルダに解析させた。マチルダから最適化できると聞き、炎の魔人は最適化による影響を受けないと確認した上で術式の最適化を行った。

魔法・救世主殺し：炎の魔人が従属していることが使用条件。磔刑丘(ゴルゴダ)が最適化された事により術式が先鋭化された、アンデッドを殺す為の魔法。系統は「魔法」に分類される。アンデッドを殺すという目的の為にのみ、人智を越えた計算機によって一片の無駄のない術式が組成される。効果：アンデッドはこの術に抵抗できない。鉄壁防御等で抵抗された場合、次のターンに再度術式の影響を受ける事を強要する。これをうけたアンデッドは、1ターンにつき18%のHP最大値をロストしていく。この術にかかり7ターン目にアンデッドは消滅する。この攻撃により受けたHP最大値へのダメージはあらゆる方法で回復できない。

マチルダにとって宝具は架空の魔道具だった。太極図の最適化には時間がかかるらしい。ルルカの【サモンゴーレム】も最適化は可能らしいが時間がかかるとのこと。

そろそろ出かけようと、一行とテレサとピーターたち三人でマールが所持していたテレパシーエキスを飲んだ。ピーターがいきなりエリの顔を知っていると言い出す。マチルダもそれを肯定。ピーターがギルガメスの個人データからエリの顔を表示させた。ギルガメスはエリに恋をしていたらしく、妻に内緒で写真を残していたらしい。ピーターによるとエリは甘い物好きでTRPG好きで世界史マニアで大雑把で細かいことを気にしないが凹むと部屋から三日は出てこないらしい。地球に置いてきた恋人『マサオミ』の話をよくしていたという。

女海賊Aに似ていると、写真を見た一行は思った。



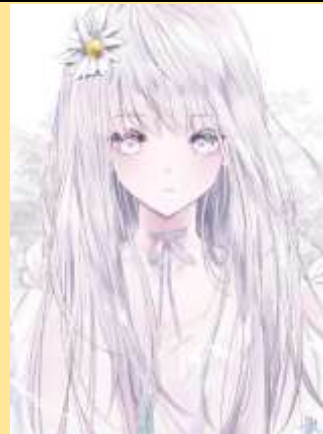
マチルダはエリと接触したことはなかったらしい。女海賊Aの似顔絵とエリの写真を比較したマチルダは共通の特徴があることを見出した。

エリの情報に衝撃を受けていた一行だったが、ピーターにツッコミを受けて今度こそ出発することになった。

## リセット！

深海の蒼光 4/10 0:30~4/10 1:03

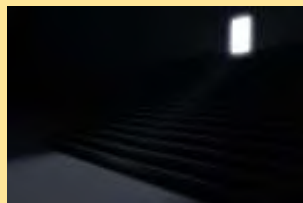
船外に出てモトの居城へ行こうとした一行の前に唐突に少女が現れた。  
ミレイユのことをじっと見つめている。根源的な恐怖により動けなくなる一行。  
**彼女はリセットと名乗った。世界の調停者らしい。**  
ミレイユとルルカに会うのは二度目とのこと。  
(北方海賊拠点揚陸制圧作戦と思われる。ミレイユもルルカも記憶を消されている)  
**リセットはミレイユの【魔法・救世主殺し】とルルカの二段限界突破を問題視。**  
それに対しミレイユは『全てのできることをすることの何が悪い?!』と逆切れした。  
**リセットはイエローカードを宣告。**  
今回は見逃すが次に術式の最適化を行ったら再び来るらしい。  
『リセット』の声で一行は王の船を出るところまで引き戻された。  
しかし、リセットの記憶は消えておらず、ルルカのレベルもそのまま、  
ミレイユの【魔法・救世主殺し】もそのままだった。



## 城

深海の蒼光 4/12 21:33~23:41

改めて出発した一行。目の前には聳え立つ廃墟のような古城が見える。  
隊列を組んで進んでいく一行だが、周囲には動物や虫の気配がない。  
城に入るための跳ね橋は壊れそうな雰囲気、門は壊れていた。  
橋の下は断崖絶壁で底が見えない。魔力の流れにも異常はない。  
安全のためノーウェンの白飛竜で断崖絶壁を飛び越えて門の中に入った。  
門の奥は暗がりになっているので、魔法のランタンを灯して中に入っていく。  
足音が大きく響いた。**正面に進むとゴーレムやパペットゴーレムのまだ新しい残骸がある。**  
残骸の正面には上り階段と奥へ進む細い通路がある。細い通路には侵入の跡がない。  
一行は階段を上った。  
第二層には正面に続く広い通路があり、後方にはさらに折返しの上り階段がある。  
足跡は階段を上がるものと、階段から降りてきて広い通路を奥に進むものがある。  
通路を奥に進んでいくと正面には大扉がある。**エーゲッツのものと思われる実験体も数体いるが襲ってくる様子はない。**  
**大扉は少しだけ開いていて、扉の奥には大量の本を積み上げて読み耽りご満悦の様子のエーゲッツの姿。**  
エーゲッツを放置して戻ってくると再び階段を上った。しばらく上ると最上階に到達。  
最上階には巨大な扉があり、扉の向こう側は風が吹きすさぶ屋外のような音が聴こえる。  
重そうな扉をストーンゴーレムを使って開けた。



## 骨竜帝

深海の蒼光 4/12 23:41~4/13 22:38

扉を開くと吹き抜ける広い空間があり、風が吹きすさぶ細い通路になっている。  
風の強さは、吹き飛ばされるほどではない。  
**通路の500m先には巨大な塔があり、広い場所に巨大な骨だけの竜が鎮座していた。**  
骨竜亭を目の当たりにして怒りと憎しみを押さえきれなくなったミレイユを先頭に一行は前に進む。  
いつの間にか日も暮れ薄闇がおりてきた。骨竜帝モトの様子は遠目だとよく分からない。  
一行はさらに近づいていった。ミレイユは歩きながら【ヒーロー】をかけて戦いに備える。  
一行がモトから10mほどの距離に近づいて、ようやく骨竜帝は話しかけてきた。よく見ると骨竜の傍に人型の死体もある。

モト「やあ、よく来たね。待っていたよ。くじけるでもなく、不貞腐れるでもなく、ただただここまで、僕を殺す為によくここまでたどり着いたものだ。道中の君たちの行動は全て見ていたよ。素晴らしい物だった」

ミレイユ「色々面倒な手順を踏んで貴様が私を呼んだのは分かったつもりだ」

前口上を長くしすぎると、そのせいで一矢報うこともできずに死んだレッドキャップヒーローのことを思い出したミレイユは、モトにユニコーンズホーンを突き出した。

モト「おいおい、折角ここまで来たんだぜ。少しぐらいおしゃべりにつきあってもバチは当たらないと思うけれどな。僕は図書室で狂喜しているあいつのように、勝てばそれで良いという現実主義者ではないからね」

ミレイユ「貴様には貴様の事情があり、私には私の怒りがある。…貴様を殺すことに変わりはない。だが、話くらいは聞くとしよう」

セフィ「――さて。それで演出家殿から合格をいただけたわけですが。結局貴方は何がしたかったのですか？ 現実主義ではない、理想を追い求めるというのであれば、貴方の理想は――その名の通りということでしょうか？」

モト「君たちは怒りに駆られ、更なる強い怒りを引き連れて僕を滅ぼしに来る。僕はこの世界で邪悪な竜として討伐されて歴史に自らの名前を刻む。これが僕の求めていたことだ。だからそれでよい。『世界の意思』にまで見逃されて君たちはここまで来ることができた。普通ならばリセットを受けているだろう君たちがここに来ることが出来たということは、僕は世界の意思に見逃されてでも排除されなければならない異物であるからだよ。この世界で死んでも僕はこの世界の土に還れない。こうして肉が風化し、骨だけになって尚、こうして意思を保ち続けているのがその証拠という訳さ」

ミレイユ「そうだ。そしてそのとおり（モトを滅ぼしに来ること）になった。さぞ満足だろうな。これから貴様が行くところが元の世界なのかどうかはともかくとしてな」

モト「へえ、僕の事を随分と調べて勉強してくれたんだね。嬉しい限りだよ。僕は確かに元の世界に帰りたいと思ってずっと苦労してきたのさ。この世界に存在するデバイスリフレクターによって、理不尽にこの世界に召喚されてしまっただけからはね。気の遠くなるような長い時間、元の世界に帰るための研究を積み重ねてきた。あの糞キノコ（デバイスリフレクター）の力をつかって、移動空間を転移して別の世界に行く方法の研究もできた。しかし、狙って自分の世界へ戻る方法はどうしても見つからなかった」

ミレイユ「その死体は、ギルガメスか？」

モト「ああ、これかい、これは僕の肉だよ。もう役目を終えたものなのだが、いまだに朽ちて尚、消えてなくなることが出来ない。僕はね、この世界の土にすら還ることが許されないのさ。（元の世界に）帰る事を許さないくせに、この世界の一存在として当然享受する『死』すら、僕には許されていないんだ。だから君たちを呼んだ。君たちはとても良いシナリオに従って、僕を倒すべき『敵』として、この世界での位置付けを与えてくれたのさ。そして君たちの手で排斥され、存在を『無い』ものにされる。これほど嬉しい事はない」

ミレイユ「デバイスリフレクターに意思があるかどうか、私は知らない。貴様はデバイスリフレクターをどう見た？」

モト「さあ、知らないね。僕を受け入れる気の無いこの世界に、僕は心底興味がないのさ」

ミレイユ「貴様がどう語ろうと同情はしない。私の憎しみが貴様をどの世界に送るのかも分からない。だが、ここは違うところにいけば貴様は何かを試せるかも知れないな」

モト「まあ、聞けよ。別に同情されたくてこんな事を話している訳じゃないのさ」

ミレイユ「済まないな。私は冷静ではいられないんだ。だが、貴様の遺言くらいは聞こう。つまり、貴様は私達を使ってデバイスリフレクターに貴様の再定義をさせるという手段を選んだ。そういうことか？」

モト「別に小難しい事を言っている訳じゃない。僕は今、自分の為に用意された『お誕生日席』に座っているような気分だと言いたいんだよ。君たちに感謝しているという事を言いたいのだ。僕をこの世界の存在と認め、かつ、僕の為に人生をなげうって、『僕をどうにかしようとしてくれた』。それはこの世界で唯一君達だけだし、君が持っている『それ』は、まぎれもなく『僕だけ』をどうにかしようとして作ってくれた最高のプレゼントというわけなんだからね。君たちが僕に向ける憎しみすらも愛おしい。愛されることも、憎まれることも僕にとっては同義だ。存在そのものを無視されるという事に比べればよっぽどそれは素晴らしいものだ」

セフィ「そうですね……、最大の苦痛は無関心でしょうから」

ミレイユ「そのとおりだ。これは貴様を滅ぼすためだけに用意したものだ。おそらく二度と使う機会はあるまい。……貴様が私の憎しみを喜ぶのは腹立たしいがな」

セフィ「つまり、貴方はこの世界に馴染もうとはできなかったのですね。そこまで元の世界にこだわったのは何故です？」

モト「元の世界に帰りたかったのは最初だけさ。それなりにこの世界を気に入って、この世界に骨をうずめても良いかと思ったこともあった。だが、僕は結局、この世界で死ぬことはできなかったという事だよ。ああ、そうだ。この世界で肉が腐り、虫に喰われ、朽ちて土になり、命の循環の中に取り込まれる。僕はただそれだけで満足だったんだ。だが…無理だったのさ。色々試した。こうして竜になったのも、この世界の生物となれば朽ちることが出来るかと考えたからだ。だが、結果は見ての通り、死んでみても骨になって今もなお生きている。この世界のために朽ちることが出来ない、元の世界にも帰れない。僕の存在を認めて、僕の為に何かをしてくれようとした人間すらも誰も居ない、僕はただただ、ひたすらこの世界から無関心という仕打ちを受け続けてきたんだ。そう、何千年も。元の世界にいられば、精々七十年、遅くたって百年も生きれば僕は土に還っていたのに、僕は別に来たくてこの世界にきたわけではないのに。呼び出しておいて、僕に関心を向けてくれて、僕の為に何かをしてくれた存在なんて誰一人いなかった。そう、君達だけだ、僕の為にここまで手を込んで殺しに来てくれたのはね！」

セフィ「私はすべてのものに意味が在ると言えるほどの域には達していませんが——貴方のために、ギルガメスの家系は随分と心を砕いていたようですよ」

モト「ギルガメス、そんなやつも居たな、でもあいつは僕に『何とかしてやる』って約束をしたまま、それを果たしもせずに死んだよ。もう1300年も前にね。まあ、もうそんな昔の事は良いじゃないか。今は君達と殺（あい）しあいたい。ミレイユ、君の【救世主殺し】が僕に与える猶予はおよそ一分ほど。その間に僕が君を殺せば君の救世主殺しはそこでほどけて何の意味もなさなくなる」

モトは随分感情的になっている。そして、テレサは何かを言いたげに首を横に振っていた。

ディル「お前のモトって名前は本名じゃないだろう。聞かなかった我々も悪いが、しっかり名前を名乗るのだ」

マール「ううん、ギルガメスさんはずっとモトさんの事を気にかけてて、子孫にまでモトを元の世界に返す方法を探してくれってお願いしてたんだよ」

セフィ「……ならば、最後はモトではなく。エンキドゥでしたか、名乗るのも良いのでは」

モト「**僕の名前は、エルキドゥ・リジャーク・ウィグ・バスタルソラ**。さあ、全身全霊で僕を殺しに來い、そして地獄の60秒をしのぎ切って見せろ！」

テレサ「皆さんが気づかれた通り、**彼をこの世界の存在として受け入れ、彼に対して様々な行動をした人は沢山いました**。ギルガメス、その一族、ネバーランドはモトを救うために築かれた一国家です。文明の始まりは神秘の国サンク・トラガから。しかし世界の端ともいえるこの島で、黙々と国を作り、地盤を作り、ただただ薬剤の研究に明け暮れたバビロンという国は彼の為。彼の為に涙を流し、寄り添おうとしたのはレッドキャップ達です。残念ながら話を聞く機会はありませんでしたが。彼を崇拜し、彼の存在を求めてここまでたどり着いたエーゲッツもまたその一人。世界は、彼を受け入れています。彼が死ねない、**彼が滅びることが出来ないのは、ただただ些細な一現象にすぎません**。それに、何だかんだで、彼の落とし胤としてゴブリン帝国は誕生し、かつ、その帝国は「リセット」されていないのです。その意味を彼は受け止めなければなりません」

セフィ「——つまり、思う力こそが彼をあのよう留めていると？ 思う力の強さこそが、彼をあの形にしてなお、地に還ることをさせないのでしょうか」

テレサ「**彼が滅びることが出来ないのは、魂のありかを彼が決めることが出来ていないからです**。貴方達も、全身全霊をもって彼を滅ぼそうとしている。彼が自分の為と認識できたのは貴方達の行動のみだったようですが。一つ気づけば、あとはおのずと気づくものです。主は『ヒト』に耐えかねる試練を負わせることはありません。そこには必ず逃げ道が用意されます。彼が元の世界に帰る方法も既に皆さんが気づかれている通りです。だから、今は彼を全力で滅ぼしてください」

**テレサはここに来て初めて戦闘に参加する姿勢。鐘を持ち出した。**

モト「僕の可愛いひな鳥達、君たちに感謝したい気持ちだ、さあ、おいでミレイユ。全身全霊をもって殺しあおうじゃないか！」

マール「もー、人の話聞いてくれないんだから！ このわからんちん！」

そして、戦闘が開始された。

## モトとの戦闘

深海の蒼光 4/13 22:39~4/19 21:33

モトとの戦いが始まった。一行は隊列を組んだ。**モトはステータス異常は無効だがデバフは可能らしい**。アンデッド恐怖症なマールはアンデッドである骨竜帝モトに対し【逆切れ】で戦闘に臨んだ。

骨竜帝モト Lv58 HP3800/3800 回避30 物理防御40 魔法抵抗40 敏捷10 生命抵抗無効 受動防御5以下 あらゆるステータス異常無効 夜の戦慄 不死属性 飛行能力 生命操作可 特定の術で行動不能

【壁】 -60m- 【モト】 -10m- 【ディル (ZOC) ・セフィ・マール・マサヨシ・アグリッパ】 -2m- 【ノーウェン (ZOC) 】 【ミレイユ】 【アリーヤ (右10m) 】 -8m- 【ソニア・テレサ】 -10m- 【ルルカ】 -30m- 【壁】

## 1ターン目

モトHP：3800/3800

セフィが【ダークプリズン】でモトを呪縛し、【ダブルキャスト】をかける。マサヨシが【死番の悟】で覚悟を決め、【奥義・無念夢想】で構える。アグリッパは【にゃんこスタイル】【ハンティングモード】の構えで【ダークソード】で剣をエンチャントした。マールは【音無し+】【変幻殺法・山】で構えた。ノーウェンは【竜騎士宣言】【竜の翼】で気合を入れる。ディルも【騎士宣言】【白熱】【騎士道大原則】で必勝を期す。ソニアは【ヴィクトリーソング】を歌い始めた。

ミレイユは【魔法・救世主殺し】でモトを攻撃。モトの最大HPが大きく減り、さらに回避-10、魔法抵抗-10、（物理も魔法も）防御-10、魔力-10、命中-10、威力-10となった。モトを殺すためだけの魔法に至福を感じたモト。

セフィは【エンジェラス】で全員の防御力を上げ、【フィジカルパーフェクト】で自身を強化。さらに【天空の剣】の体勢になる。アグリッパのザッハークの剣は受動防御に阻まれたがオリハルコンソードが命中。しかし、ダメージは通らなかった。マールは阿修羅刀イザナミとイザナギを閃かせて斬りつけ、片方が受動防御で弾かれたが、もう片方でダメージを通せた。ディルは【ブッシング・オブ・オラトリア】で自身とセフィとミレイユのために祈った。アリーヤは【フィジカルパーフェクト】で自身を強化。

ここでモトが【コメットストーム】で隕石を落とすが、テレサが【ウォール・オブ・ジェリコ】で隕石を受け止めた。さらにモトは【ゾルトラーク】でディル、ノーウェン、セフィ、ミレイユを貫く。有無を言わせない達成（クリティカル）でセフィとミレイユの【リフレックス】でも跳ね返すことができなかった。セフィはマジックアミュレットを割ってダメージを消去。ノーウェンは【ドラゴニックオーラ】を展開したうえで受けた。

ルルカは【サモンダック】でガーノスケを召喚。テレサの神域（？）神聖祈祷【万軍の主の戦列に挑戦するものは誰ぞ】で全員が物理攻撃に聖・秩序・プラスト属性を付与された。ノーウェンは【ファストエイド】で【ゾルトラーク】により傷を負った自身とディルとミレイユを治療。マサヨシは【抜き・惨】【返し】で居合斬りを見せるがどちらも受動防御で弾かれた。

【壁】-60m-【モト】【アグリッパ・マール】-3m-【マサヨシ】-7m-【ディル（ZOC）・セフィ】-2m-【ノーウェン（ZOC）】【ミレイユ】【アリーヤ（右10m）】-8m-【ソニア・テレサ】-10m-【ルルカ】-30m-【壁】

## 2ターン目

モトHP：3150/3167

ノーウェンが【竜騎士宣言】。ディルも【騎士宣言】【白熱】【騎士道大原則】を宣言。アグリッパが【にゃんこスタイル】【ハンティング・モード】【ダークソード】で構える。セフィは引き続き【ダークプリズン】をかけ、【リザレクター】【マナバーン】で勝負に出る。マールは【変幻殺法・山】の構え。アリーヤは【パーフェクトバーンズスタイル】の体勢。

【魔法・救世主殺し】によりモトが最大HPに大ダメージを受ける。

ここでモトはファストトリックで先制しながら【ダブルキャスト】。さらにD行動で【生命操作】。生命力を30消費して魔力を90上昇させた。そのうえで、原初竜言語魔法【竜の吐息】を使用。ほぼ抵抗不能な攻撃に晒される一行。マールは【愛は無敵】でダメージを無効化。アグリッパは【バックステップ】でマサヨシの近くに移動し【ガード】でマサヨシを守り、【ギャングスタータフネス】でダメージに耐える。ディルは守りを固めてZOCで自分の後ろに抜けるダメージを一人で引き受け大ダメージを負った。ディルのZOCから離れた位置にいたアリーヤは運命力（超英雄ポイント）で抵抗し、【教訓2】を思い出した。さらにモトは【塵は塵に（ダスト・トゥ・ダスト）】で直接ロストさせる術を放ってきた。こちらは全員ライフアミュレットを割ることを余儀なくされ、ルルカはファミリアの分もライフアミュレットを消費し、アリーヤはドローンの分のライフアミュレットを消費した。マサヨシは後方に移動して【太極図】展開の準備をする。アグリッパは左右の剣で斬りつけるがザッハークの剣は受動防御に蹴られオリハルコンの剣で傷を与えた。マールはワーラグランデで傷を重ねる。セフィは【クレイジーラッシュ】を発動。【天軍の剣・ミカエラ】を三連続で打ち込んで少なからずダメージを与え、追撃でもう一つ【天軍の剣・ミカエラ】を叩き込んだ。ルルカは【魔法・星呼び】で隕石を降らせ、少なくないダメージを積み重ねた。ミレイユは【スロウムーブ】でモトの動きを鈍らせた。テレサは【ブレイク・オブ・ジェリコ】でモトの受動防御を3ターンだけ-2する。アリーヤはショットガンで射撃をするが受動防御に阻まれた。ソニアはダメージを負ったディルを【フルリカバリー】で回復する。ノーウェンは【サモン・ドラゴンブラッド】で守りを固めた。ディルはクレイモアと金の斧で打ちかかり、ジャンヌ・ダルクの剣で【幻影刃】を放ちダメージを重ねた。

【壁】 - 60m- 【モト】 【アグリッパ (右側面)】 【マール (右側面5m)】 -7m- 【ディル (ZOC)】 -2m- 【セフィ】 -3m- 【ノーウェン (ZOC)】 【ミレイユ】 【アリーヤ (右9m)】 -4m- 【マサヨシ】 -2m- 【ソニア】 -2m- 【テレサ】 -10m- 【ルルカ】 -30m- 【壁】

### 3ターン目

モトHP : 2280/2504

ミレイユは【ハンティング・モード】で構え、マールは【変幻殺法・山】の構え。セフィは【マナバーン】でTPが増殖しつつ【ダークプリズン】【ダブルキャスト】【天空の剣】を継続。ディルは【騎士宣言】【白熱】【騎士道大原則】を宣言。ノーウェンは【竜騎士宣言】を宣言。アグリッパは【にゃんこスタイル】【ハンティング・モード】の構えで【ダークソード】を使用。アリーヤは【パーフェクトバーンズスタイル】で構えた。マサヨシは【太極図】の展開に専念している。

【魔法・救世主殺し】によりモトが最大HPに大ダメージを受ける。

アグリッパが攻撃の本領を発揮、ザッハークの剣で【幻影刃】を繰り出し、オリハルコンの剣で斬りつけダメージを積み重ねた。セフィは【暁の明星・ルシファー】と【メテオ・スウォーム】で運命力を使いながらも少なからずダメージを蓄積する。ミレイユは【ギルティブレイク】で無反動アローを発射して傷をつけた。マールは【十五夜】で鋭い刃による激しい連撃をくわえて大きなダメージを与える。アリーヤは【サモン・フェイバリット】でタワーシールドを呼び出した。

モトの手番。牙と左右の爪と尻尾で近距離を薙ぎ払った。マールは【忍法・空蟬天舞】でモトの後方に転移。ディルは硬い装甲で受けきった。アグリッパはルルカとセフィとアリーヤとミレイユから【ブルースフィア】で支援を受けてプロテクトアミュレットも使って倒れはしたものの、生命を繋いだ。さらにモトは【服従の天秤】を使用して魔法生命体の支配権を奪う。天使とインテリジェンスソードがマスターの命令に服従しなくなった。(アリーヤのドローンは機械だから対象外、ルルカファミリアは魔法生命体ではないので対象外。他に対象になりそうな存在は場に出していない) ダメ押しで【竜の咆哮】で威嚇したが、ノーウェンが【竜騎士宣言】をしていたので被害は出なかった。

ソニアはアグリッパに【フルリカバリー】を使い、HPを回復。ノーウェンもディルに【ファストエイド】を使用して傷を癒やす。ルルカはここで【イフリート】を召喚してさらにダメージを積み重ねた。ディルは超重剣の斬撃とジャンヌ・ダルクの剣で【幻影刃】を繰り出してさらにダメージを重ねる。テレサは【偶像を打ち砕け】の祈祷で一行の攻撃力を倍加させた。

【壁】 - 60m- 【マール】 【モト】 【アグリッパ (右側面3m)】 【ディル (ZOC10m)】 -8m- 【魔力+2前端】 -1m- 【セフィ】 -1m- 【魔力+2後端】 -2m- 【ノーウェン (ZOC9m)】 【ミレイユ】 【アリーヤ (右9m)】 -3m- 【アンチマナ前端】 -1m- 【マサヨシ】 -1m- 【アンチマナ後端】 -1m- 【ソニア】 -2m- 【テレサ】 -10m- 【ルルカ】 -30m- 【壁】

### 4ターン目

モトHP : 1416/1871

セフィは【ダークプリズン】【ダブルキャスト】を継続して【情熱のワルツ】を踊り始めた。マールは【変幻殺法・山】の構え。ディルは【リザレクター】で加速し、【騎士宣言】【白熱】【騎士道大原則】を宣言。アリーヤは【全力防御】の体勢。ノーウェンは【竜騎士宣言】を宣言。ミレイユは【ハンティング・モード】の構え。

【魔法・救世主殺し】によりモトが最大HPに大ダメージを受ける。

モトがファストトリックで致命的な効果(恐怖による死、50点魔法ダメージ(肺)、石化、毒(30秒で即死)のいずれかがランダムで発生する)を秘めた闇のブレスを吐こうとした瞬間、ルルカはダムビットで瞬時に【テレポート】してモトの至近距離に転移し、【パーミッション】でモトのブレス放出を封じた。

ディルは青と赤のワーラグランデを振り回しさらにジャンヌ・ダルクの剣で【幻影刃】を繰り出すコンボを二回繰り返して大ダメージを与えた。セフィは【ブルーティッシュボルト】からの【バイオレンスラッシュ】でやはり大ダメージを与える。マールは【破壊のコツ】を使いモトを殴りつけて少なからぬダメージを与えた。ミレイユは再び【ギルティブレイク】で無反動アローを発射してダメージを重ねた。

【壁】 - 60m- 【マール】 【モト】 【ルルカ・セフィ】 【アグリッパ（右側面3m）】 -5m- 【ディル（ZOC10m）】 -3m- 【魔力+2前端】 -2m- 【魔力+2後端】 【アンチマナ前端】 -1m- 【マサヨシ】 -1m- 【アンチマナ後端】 -1m- 【ノーウェン（ZOC9m）】 【ミレイユ・ソニア】 【アリーヤ（右9m）】 -7m- 【テレサ】 -40m- 【壁】

## 5ターン目

モトHP：314/1238

【魔法・救世主殺し】によりモトが最大HPに大ダメージを受ける。このダメージでモトはHPが0になった。

ドラゴンとしてのモトの身体が崩れ去っていく一方で、足元の玉座にあったミイラが座り直した。

## 滅びゆく骨竜帝

深海の蒼光 4/19 21:33~21:58

滅びを目前にした骨竜帝モトと一行が最後の会話をする、

骨竜帝モトは自らの存在を世界に『滅ぼされるべき害悪』と認めさせ、それにより滅びることができた。これはモトの描いた筋書き通りだった。憎しみを受けることで退場できたのなら成果はあった。

モトには自分のあり方を定めることができた感覚はない。一行との殺し合いは面白かったが今は虚しい。自分の意志とは無関係に召喚され、帰れず、世界に受け入れられず、最後は邪魔者として滅ぼされる。結局自分は何だったのか。

望まれて生まれたわけではなく、この世界の存在として受け入れられなかった自分には、信念など関係ない。（意識）自分は招かれざる客だった。結局世界はその責任をとってくれなかった。

自分が元いた世界のことは昔のこと過ぎて忘れた。

（マゼンダやコレットにかけた）呪いはモトが死ねば解ける簡単なもの。

モトが何者かということは答えが出ない哲学的な問題。自分を規定する記号がない以上、答えようがない。（意識）

『転生のサーガ』（転生の薬にまつわる物語）については知らない。

（ピーターが見せてくれたエリの似顔絵を見せられても）誰なのか分からない。

マールとセフィは転生の薬をギルガメスの子孫が完成させたものだと言った上でモトに薬を渡した。セフィはそれをとどめだと言い、モトは転生の薬を飲み、この薬のせいで元の世界に戻れるのなら今度はちゃんと召喚されてもいいと言い残して、滅びた。その滅びは転生の薬によるものなのか救世主殺しによるものなのかは判別がつかなかった。

## 再生と脱出

深海の蒼光 4/19 21:58~23:06

モトの焼け残りから静かに煙が立ち上り薄く空を覆った。薄暗くなった空から雨が降ってきた。その雨にあたって、望まない異常を抱えていた者はそれから開放された。これはある種の願望器で、骨竜帝モトが抱いていた『元に戻りたい』という願い。この雨に当たることで『元に戻りたいという願い』が叶う。（ミレイユとソニアは画像を見たショックによる影響をキャンセル。マサヨシは太極図を扱うために失った21年分の寿命を取り戻した）雨水を持ち帰ることはできなかった。また、後で分かるがこの時点で『新型インフルエンザ』の感染リスクが消えた。



テレサが言うにはこれは『戻りの雨』。骨竜帝モトに与えられていた世界からの祝福が行き場を失って解放されて恵みの雨になったとのこと。世界に受け入れられていない存在が神にも近い力を手にするはずがない。モトは世界に受け入れられていたことを、転生の薬を見た時に悟ったのだらうと、テレサは語った。天秤の遺跡（GS第17話『虹色の英雄』）にいた四人のテレサと意見は違ってしまうが、【ここにいるテレサは】この世界が罪だとは思わない。テレサと冒険者達との混沌とした旅はまだ続くようだ。ミレイユのもとにコレットが落ちてきた。炎の魔人の気配は消えている。セフィはモトが持っていた大剣を拾い上げて墓標とした。マサヨシたちは後から鑑定するために大剣を写真記憶した。

#### コレットに発生した変化：

物語『元精霊王』を付与。サモナーの限界突破を得る。以後、イフリートとサラマンダーによるダメージは受けない。レベル9以上で、TP5消費（固定）かつ宝石不要で魔力12（知力Bや魔道具の修正を適用可能）のイフリートを使用可能。レベル5以上で、TP消費無しかつ宝石不要で魔力12（知力Bや魔道具の修正を適用可能）のサラマンダーを使用可能。使い魔“サラマンダー”を得る。

サラマンダー HP10/10 TP15/15 たいまつ代わりになる 防御力、抵抗力は主人に沿う、魔法の武器以外でダメージを受けない、炎属性無効、魔力10（固定）でトカゲのしっぽを使用可能（TP3消費）。連れ歩ける。HPorTPが0になると消えるが、4週間後に戻ってくる。

振り返ると、吊橋は崩れている。古城の方は現存しているが今にも崩れそう。モトの背後にあった塔は人が入れなさそう。テレサにツッコミを受けて、一行はノーウェンの白飛竜で古城の扉まで送ってもらい、古城に入った。まず、未踏破だった第一層の細道を進んでみた。そこには金銀財宝が山と積み上がっている。金にはなりそうだがマジックアイテムはなさそうだ。次いで、エーゲッツがいた書庫に来てみるとエーゲッツは銃で頭を撃ち抜いて死んでいた。実験体も残らず灰になっている。殴り書きのメモには『最早この世界に用はなし！我！まだ見ぬ異世界へ転生し、新しく旅立たん！』と記されていた。

#### 財宝持ち帰り宣言

ディール：重さ10

#### 本持ち帰り宣言

アグリッパ：重さ70、アリーヤ：重さ10、セフィオ：重さ33、フォルトウナ：重さ10、ディール：重さ150、リオ：重さ160、ノーウェン：重さ30、マサヨシ：重さ50、マール：重さ50、ミレイユ：重さ30、ルルカ（ルルカのみ荷物だけテレポートでホオヅキに転送）：重さ50

セフィとディールは運悪く荷物をぶちまけてしまった。一行は再び白飛竜で王の船に戻った。この冒険で酷使され続けた白飛竜のレベルが1上がった。

#### 船旅と幕引き

深海の蒼光 4/19 23:07~4/20 0:00

モトとエーゲッツのことにケリがついたという一行の話を聞いたウェンディは複雑そうな雰囲気だったが、一行とテレサとピーターたちは王の船で王の蔵に戻った。マチルダにギルガメスの残した他の蔵の位置を訊いたが、今見つかっているもの以外はすべて海中にあるらしい。元の蔵の場所に戻り、王の船はいったん眠りについた。

王の蔵から出てきた一行の前にはレッドキャップヒーローとレッドキャップたちがずらりと並んでいた。雨で復活したらしい。しかし、レッドキャップたちは一斉に胸に手を当てて頭を垂れてから集落の方へと戻っていった。ウェンディとフックは彼らから殺気を感じなかった。もうレッドキャップは砦を襲ってはこないだろうとフックは判断した。テレサは、雨に打たれてモトの終焉を知り事情も察した彼らは、人間と手を取り合うことはないだろうが敵になることもないだろうと言った。ピーターは敵対しないならそれで充分だと言う。

皆で砦に戻った。ゴブリンたちと話し合いの場を持つようにとセフィに言われ、相手はゴブリンだから不干渉でいいと面倒くさそうなフックを横目にピーターは食料事情を解決してから一度挨拶してくると約束した。お礼や別れの挨拶を交わして一行は白飛竜でマルスに戻った。森を見れば雰囲気は穏やかになっている。

マルスに戻ってみると、街は異界に飲み込まれた人（GS第19話 第二作戦『人の形と魔の形』での出来事）が戻って騒ぎになっていた。王宮も混乱しているが、クリムゾンアイが王の衣を着たゴブリンを抱きしめている姿があった。一行は邪魔するのを避け地図を軍人に返し、クリムゾンアイに、今回一行が色々世話になったアルマーヤ王朝の方から人が来るかも知れないことなどをしたためた手紙を残した。

そうして一行はホオヅキへと帰還した。

## 帰還と後始末

深海の蒼光 4/20 0:00~21:49

ホオヅキに帰還した一行。

クリムゾンアイから約束通りの報酬とネバーランド王国への戦力的不干渉を約束するという内容の手紙が届いた。

モトの居城から持ち帰った本は重さ1につき10000セレンで引き取り、財宝は重さ1につき5000セレンで引き取るとのこと。

持ち帰った本をホオヅキに提出した場合はお金は貰えず、本は時計塔の封印図書となり闇に葬られる。本のタイトルは『異世界転生』『異世界に行く方法』『異世界とは』『異世界への帰還』など。

ネバーランドからは、お礼として出せるものがないので、『王の船』を譲渡された。ホオヅキに王の船が取り込まれ、マチルダがホオヅキのメインUIとなった。ホオヅキはビッグセブンのドックで娼船から戦艦へと改装された。娼館機能は交易所に続きビッグセブンへと移転することになった。

新型インフルエンザの論文はサロメに提出され、研究資料となった。マサヨシは太極青雲剣を王の蔵から回収して崑崙山へと奉納した。

マサヨシは写真記憶したモトの大剣の鑑定を行った。

エヌマエリシュ：神話の中に存在する天地創造を司った究極の神器。その真相は謎に包まれている。ギルガメス王が死去した後、長らく行方不明になっていた。ネフィリム。能力詳細は不明（文献に残っていない）

一行は女海賊Aに話を聞きに行った。身分を偽ったり嘘を言っている様子はなかったが、話はほとんどはぐらかされた。

実家はティガールの片田舎。1300年続く由緒ある家系などではない。

モブのような自分に似ている人などたくさんいる。エリという名前を聞くと少し目を細めた。

固有名詞（本名）を名乗るつもりはない。モブはこだわり。

TRPGとか世界史と言われてもわからない。

ファイサリス船長とは昔からの付き合い。若い頃の船長はやんちゃだった。船長は朴念仁で好きになるなどない。

キュア	深海の蒼光 4/20 21:57~22:30
次にリリーナのところに報告に来た一行。その様子を見て絶句している。少し呆れた様子。骨竜帝モトを倒したという報告は入っていたらしい。リリーナ自身は磔刑丘・真がどの程度役に立ったのか疑問に思っている。	
リセットの名前は出してはならない。心のうちにしまっておきなさい。	
深淵を覗いてしまったことによる変化に対するフォローを用意してくれる。好奇心に駆られて余計なものを見てはならない。	
惑星調査団なんて知らない。	

秘書	深海の蒼光 4/20 22:38~23:06
ビッグファーザーのところにエーゲッツが死んだことを報告に来たが、彼はシーフギルドの会合に出かけていて留守だった。代理の秘書が対応した。	
エーゲッツが死んだことは既に報告があった。ビッグファーザーは研究成果による十分な利益も得たのでエーゲッツを解き放とうと考えていたらしい。	
実験体が灰になったというなら犠牲者たちは解放されたということだろう。	
エーゲッツのラボは彼が逃走する時に爆破されていた。研究成果のうちいくつかは手に入っているので今後役立つ。ただしそれはビッグセブンの所有物である。	

神域	深海の蒼光 4/20 23:06~23:36
モトとの戦いで見た神域神聖祈祷について訊くためにテレサを探したら、王の船の中にマチルダと一緒にいた。	
王の船はピーターの指示によりホオヅキに譲渡された。マチルダは今後ホオヅキを母体として活動する。異世界語（共通語）の習得は完了した。定期的に情報の更新を行う。	
モトとの戦いで使った神域神聖祈祷はバイブルの中の『ヨシュア記』『サムエル記』からもらったもの。聖書の学び会をする。【リターン・ガラリィ】もまた『福音書』に起源を持つ神域神聖祈祷。（テレサの神域神聖祈祷が今後拡張される）これらは随分昔に忘れてしまったものだった。	
マチルダが行った術式の最適化の情報は削除されていた。歴史が改変されたらしい。	

リザルト	深海の蒼光 4/20 23:36~4/21 0:12
<p>経験点：50000            取得FP：100            取得知名度：100            テオクリスタル4個獲得。            経過週数：2週間            報酬：200000セレン（一人あたり）                ゴブリン帝国でモトの居城にあった本を重さ1につき10000セレンで買い取る。                （ホオヅキに提出すると闇に葬られる）</p> <p>申告した取得アイテム：            レッドキャップの仮面×3、ククーリ×5、吹き矢×7、羽矢×20、スクロール（リターン・ガラリィ）×1、太極図、生命の腕輪×6、情熱のネックレス×3、静謐のチョーカー×3、魔唱石（20点）×5、炎の魔唱石×3、静謐の魔唱石、死者の魔唱石、没頭の魔唱石 スクロール（ゾトラーク×2、コメットストーム×1、口伝・疾風×2、口伝・血操×2、秘伝・調合×2、秘伝・調理×2、服従の天秤×1）、生命のポーション×3、魔力のポーション×2、英雄の秘薬×2、覚醒の目薬×2、不死の塗り薬×3、命の水×2、若返りの薬×2、転生の薬、バビロンの盃×2、テレパシーエキス×2 オリハルコンメッシュ、オリハルコンの矢筒、オリハルコンの盾、剣（オリハルコン）、研究論文（提出済）、レシピ（キャロリーメイト）、本（アグリッパ：50、アリーヤ：10、フォルトゥナ：10、リオ：160、ノーウェン：30、マール：50、ミレイユ：30、ルルカ：50） オリハルコンの鉤爪            クリムゾンアイからの追加報酬（詳細は本冒険のアイテム分配スレッドを参照）：            不死の試練、AMR-GEMKS、ネブカデネザルの首飾り、ダニエルの箱、エレミアの涙</p>	

時系列	
1日目	マルスを出発。レッドキャップに襲撃を受けた。野営をした。夜の搜索をやり過ごした。
2日目	河原で人間の女性（ウェンディ）の死体を調査。後方からレッドキャップの追撃を受け逃走。色々苦労したが人間の砦にたどり着いた。砦の中の家で休息する。
3日目	フックが狩りに出たところをレッドキャップに襲われ、これを救出。『王の船』を使って海峡を越える方法があると分かる。レッドキャップとの戦争のための作戦会議。東部に超宝貝がありこれが闇夜の原因と分かった。超宝貝回収に向かい回収。闇夜が発生しなくなる。東部の宝物庫から回収したアイテムを鑑定した。ウェンディを蘇生。
4日目	砦で鎧など武器を借用。レッドキャップの集落に到着。レッドキャップの大量な死体を発見。レッドキャップヒーローの襲撃を受け逃亡。砦がエーゲッツに襲撃を受ける。エーゲッツと休戦する。砦の近くまでレッドキャップヒーローが来てエーゲッツに殺される。
5日目	砦を出発。王の船があると思われる宝物庫まで移動。宝物庫に入ったらそのままそれが王の船になり、海峡を渡った。
6日目	海峡の対岸に到着した。エーゲッツは上陸し、全員が新型インフルエンザに罹患。
7日目	全員が新型インフルエンザから回復。入植前の衝撃の映像を閲覧。磔刑丘・真を最適化。リセットと遭遇。モトの居城へと侵入した。モトとの戦闘。モトとエーゲッツの死亡確認。モトの居城崩壊。王の船で脱出。
8日目	王の船を一旦休眠させた。砦に戻った。ピーターたちと別れてマルスに戻る。街の様子を見てホオヅキに戻った。
9日目	
10日目	
11日目	
12日目	
13日目	
14日目	

## 固有名詞まとめ（人名以外）

<p>レッドキャップ</p>	<p>種族</p>	<p>巨人族、妖精族であるレッドキャップがモトによって進化を遂げた姿。非常に高い知能を得た上で軍事行動をとる。オリジナルのレッドキャップに比べて体は小さくなり、体長は1.6mほどで人間と変わらず、戦闘力も減退しているものの、通常単独で行動するレッドキャップと違い、10～20体単位で軍事行動をとる。人間やゴブリン、亜人を捕食する習性は変わっておらず、捕食対象に対しては欲情しない。牡の個体は老爺の仮面を被り、牝の個体は非常に美しい容姿を持った上でヴェールを被っているようだ。森で狩りをするときにはアミュレットも装備している。</p> <p>闇夜を歩くときに連続して舌打ちの音をたてていた。音以外を軽視しがちで、聴覚以外の五感は人間と同程度。音さえたてなければ後ろから殴れば気絶させられる。本拠地ではアミュレットを装備していないと思われる。</p> <p>エーゲッツによりほぼ全滅したようだ。</p> <p>実はモトの境遇に同情して寄り添おうとしたらしい。</p>
<p>ネバーランド王国</p>	<p>国名</p>	<p>アルマーヤの滅びた人間の王国の名。永遠の島と呼ばれるほどに栄華を誇ったらしい。正式にはバビロニア王国というらしい。</p> <p>実はモトを元の世界に帰すために作られた国で延々と薬品の研究に明け暮れていたらしい。</p>
<p>血帽毒</p>	<p>アイテム</p>	<p>毒を持つ巨人の血を煮詰め、さらに毒草などを用いて毒性を強めている特殊な毒。 毒性値22 麻痺毒（神経性。60秒後に死亡） ダメージ（ターンごとに5点ずつ）。生命力が低い獲物なら2～30秒で、生命力の高い獲物でも、60秒で死に至る準即死毒。狩りにも戦闘にも使える。解毒薬を作るのは難しい。</p>
<p>ネバーランド砦</p>	<p>場所</p>	<p>ネバーランド王国の生き残りがレッドキャップから身を守るために立て籠もっている砦。築30年ほど。建物は丸太を切り出したような急ごしらえのものだが中にある防御設備やマジックアイテムなどは非常に高度なものが置かれている。現在は15歳のピーター、13歳のフック、11～12歳が5人と、10歳以下が20人ほどいるようだ。砦の子供たちはごく一部を除いて南の街がいつか助けてくれると思っているらしい。中には宝物庫があって立派なマジックアイテムを持ち出せるが、武器を持ち出せるようになった子供は砦の防衛に参加するという。</p>
<p>しきたり</p>	<p>規則</p>	<p>砦の子供たちは18歳になると、森を抜けて南の街を目指すことになっている。ウェンディもこのしきたりに従って砦から出た。ピーターが物心ついたときには既にこのしきたりがあった。これが砦に大人がいない理由のようだ。</p>
<p>たいまつ</p>	<p>道具</p>	<p>固有名詞ではないが入手できないアイテムなのでこちらに記載した。緑色の炎が灯る魔法の松明。製法は不明。砦の生命線なので譲ってはもらえない。</p>

<p>王の船</p>	<p>乗り物</p>	<p>海峡を越えるための方法。この船をあらゆる流氷が避けていくという。レッドキャップの集落の近くの海岸にある蔵（バビロンの秘宝）に収めてあった。元々は地球から来た移民船だったらしい。古龍種なら大した損害も受けずに撃退できるらしい。</p> <p>目的地を告げるとひとりだけで動き始め、その船は魔物も流氷も寄せ付けず、どこへでも進む。東洋ではこの船の伝説が変化し、アマノトリフネに、帝国では宝船の伝承につながっている。用いるにはギルガメスの血筋を引くものが手を触れる必要があった。</p> <p>周囲に埋まっている鉱物で船体を修復して、周囲の生命を捕獲して乗員の飲食物を製造する。人工衛星とリンクして情報を収集する機能もある。その機能は分かっていない部分が多い。</p>
<p>宝物庫</p>	<p>設備</p>	<p>ネバーランド王国の財宝を収めてある蔵。全部で十二ある。全てはバビロニア国王ギルガメスが蒐集したとされている。</p>
<p>実験体255号</p>	<p>モンスター</p>	<p>エーゲッツによって合成された魔法生物。人間の身体二体と、擬態能力を持つ生物を掛け合わせて皮膚が移植されるなどの非人道的な改造が施されている。魔法生物とはいったが、実は素体の人間は、体の腐敗防止の為にまだ生かされており、苦しみ続けている。顔が無く、発声器官を奪われているためにその苦悶の声は誰にも聞こえてはこない。Lv11。</p>
<p>実験体455号</p>	<p>モンスター</p>	<p>人間を十二体組み合わせて筋繊維を縫合して作成された実験体。巨人の骨格を用い、人間の筋繊維を編み込むことで、どこまでの膂力が実現できるかという実験処置が施されている。筋繊維は常に崩壊と再生を繰り返しており、通常の筋肉痛の何倍もの痛みを常に味わい、実験体の素体が苦しみ構造になっている。筋繊維の崩壊を防ぐために実験体のうち約五人が生かされており、痛みは五分割され、ぎりぎり発狂しない痛みをそれぞれが引き受けて、常に苦しみながら命令に従うことを強要されている。Lv20。</p>
<p>ギルガメスの鎧</p>	<p>防具</p>	<p>ギルガメス王の直系の子孫にのみ扱う事の許される神秘の力。身に纏えば圧倒的な力と絶大な万能感に支配される。神話級の力を持っている。ダイヤモンドでできている。ピーターが着用したが、ギルガメス王の傲慢と万能感に吞まれて実力を発揮しきれなかった。現在のところ使用時間に制限があるようだ。</p>
<p>血の盟約書</p>	<p>文書</p>	<p>深層領域に存在する魔界貴族「天秤」に請願して契約を交わす古の契約書。この契約書に書かれた契約に反すると、途端に魂を奪い去られロストする。（このロストは決して回避できない）この契約は血判を押した二者間で有効となる。契約期間が終了すると燃えてなくなる。</p>
<p>急性心筋感染新型炭素ウィルス</p>	<p>病気</p>	<p>エーゲッツがレッドキャップヒーローの体内に入れたウィルス。エーゲッツに歯向かうと陰性だったのが陽性になるらしい。原理は不明。</p>

ウジ虫	モンスター	エーゲッツがコンラートに仕返しをするために用意していた虫。試験管から出すと際限なく増殖し犠牲者を食い尽くす。食べるものが無くなったところで急速に餓死する。試験管内では生存していられるらしい。
指紋認証	技術	人の掌（指？）には固有の模様がある。この模様は子孫に受け継がれるらしい。エーゲッツによるとそれを知っているのは一部の王侯貴族のみで、偽物の血族が現れた場合に指紋で判別するらしい。
新型インフルエンザ	病気	季節性の流行する風邪。ひき始めから発症、深度進行までが早く、発症後、いきなり深度4の状態から開始する特徴がある。潜伏期間は12時間。高熱、嘔吐、呼吸困難、行動不能を伴う。 病気強度14、致死深度5、深度判定、8時間ごと。一度罹患すると、同じウィルスには一年間の免疫が発生する。変異種には免疫無効。罹患した場合、他人に伝染させるリスクが約一週間ある。一週間以内はマスク・三密の回避・うがい手洗いを推奨。
人工衛星ネバーランド	天体？	王の船に情報を転送する人工衛星。謎。
母船	乗り物	王の船の母船。色々な記録が眠っている可能性があり、演算能力も王の船よりも高い。現在は通信途絶。王の船が記録していた母船の場所はサンク・トラガ国内だった。
サンク・トラガ	国名	北帝国の北にある謎の国。世界の文明はここで最初に発生したらしい。国としてまとまっているように見えないが隠れて政府があるとかないとか。王の船の母船があるらしい。
エヌマエリシュ	武器	ギルガメスの残した大剣。天地創造を司ったという神話が残っているが詳細は不明。モトの墓標となっている。

## ネームドNPCリスト

<p><b>モト</b> (エンキドゥ)</p>	<p>アルマーヤとゴブリン帝国の間の海峡に棲む、肉と鱗のないドラゴンロード。骨竜帝。パレスのドラゴンロードたちと同じくらいの時を存在し続けている。誰かがアルマーヤに渡ろうとするとモトが阻んでくるらしい。生者を弄ぶのが大好きで、クリムゾンアイにアルマーヤの叡智を渡したのも、クリムゾンアイが妖魔に課せられた閉塞による絶望に押し潰されながら足掻くのを見て愉しむためだったようだ。クリムゾンアイよりも先にレッドキャップにも叡智を与えている。</p> <p>自分の玩具だったクリムゾンアイがヴォルケイノ戦役で捕縛され、手に玩具が無くなったので暇つぶしにゴブリン帝国を使って遊ぶことにしたようだ。コレットにトゥルーデスの呪いをかけた。今回の討伐対象。その正体はギルガメスの変態仲間エンキドゥのことだった。異世界から召喚されて迷っているところをギルガメスに拾われた。異世界技術を伝えたことで王の蔵や数々の超兵器が誕生した、『元の世界に帰りたい』が口癖で、そのせいで【モト】というあだ名をつけられた。ギルガメスに元の世界に帰る方法を考えるように頼んだが、それは子孫に丸投げされていた。</p> <p>本名はエルキドゥ・リジャーク・ウィグ・バスタルソラ。デバイスリフレクターにより他の世界から召喚された存在。元々は竜ではなく、竜に変身すれば死ぬことができるかも知れないから竜になった。本来なら寿命は70年ほどで長生きしたとしてもせいぜい100歳程度までははずだった。彼は魂の在り処を定めることができなかったから死ぬことができなかったらしいが、彼はそれを世界から無視されていたから死ねなかったと思いこんでいた。実際には彼の起こした変化が世界に反映されていたから、彼は世界に無視されていたわけではなかった。ホオヅキの冒険者を挑発して呼び寄せたのは、自分を殺させるためだった。</p> <p>最後の決戦で【魔法・救世主殺し】で行動不能となった。最後になって【転生の薬】を見て実は世界に受け入れられていたのだと悟ったようだ。彼の死因が救世主殺しの魔法と転生の薬のどちらなのかははっきりしない。</p>
<p><b>ピーター</b></p>	<p>人間たちの砦のリーダーを務めている少年。15歳ほど。受け答えは大人びているが、アホの子で真面目系クズらしい。ウェンディから読み書きを教えてもらったようだが、読み書きはできないと言っている。言動もどこか他人事っぽかったり供述もよく変わる。ウェンディ手稿によると、バビロニア王国のピーター・バビロニア67世とのこと。ギルガメスの鎧を着た時に、鎧の傲慢さに呑まれていた。最後にゴブリン帝国との話し合いをすることを約束し、ゴブリン帝国との戦力的不干渉を取り決めた。(と思われる)</p>
<p><b>ウェンディ</b></p>	<p>砦にいる18歳の女性。一行が到着する3日前に、しきたりに従い南の街(マルスと思われる)の方に助けを求めに行き死亡。フックの姉。夜目は利く方(星明眼?)だが、フックのように闇視をすることはできない。ギルガメスの宝物庫で発見したラストエリクシャーにより遺髪から蘇生した。死ぬ前の記憶が欠落していて、一度死んだと認識できていない。森林行動の専門家で鞭使い。</p>
<p><b>フック</b></p>	<p>背が高くガラの悪いツンデレ少年。ウェンディの弟で13歳ほど。鉤爪の名手で闇視の能力が使える。母はヴァンピール。ウェンディを連れ帰ったことで一行に借りを感じ、協力することになった。ゴブリン帝国との話し合いを面倒臭がっていた。</p>
<p><b>長老</b></p>	<p>18歳を過ぎてもマルスの街を目指さなかった爺。随分前(ピーターが知っているくらいなので10年以上と思われる)に老衰で死去。ネバーランド王国についての知識をウェンディに教えた人。</p>



<p><b>ギルガメス</b></p>	<p>バビロニアの古代の王。各地に点在する宝物庫の財宝を集めたいらしい。その正体は1259年前に到達した（第一次）惑星調査団のギルガメス・ペトロ・ダグラス。1213年前に到着以前のすべての情報にプロテクトをかけて王の船を封印してから老衰で死亡した。遺体は土葬されている。実はクズ気質だったらしい。彼が子孫に丸投げしたモトを元の世界に戻す計画は最終的には完成していた。</p>
<p><b>レッドキャップ ヒーロー</b></p>	<p>レッドキャップの集落の守護者。滅法強い。レッドキャップの集落を襲撃した人間に憎しみを抱いていたが、エーゲッツに体内にウィルスを送り込まれ動けなくなったところをウジ虫に喰われて死んだ。…と、思われていたが、モトの死後に降ったもどり雨によって復活。雨によってモトの終焉を悟り事情を察したらしく人間に対する敵対心をなくしていたようにみえる。</p>
<p><b>エーゲッツ・ ナイル</b></p>	<p>元ビッグセブンの幹部。えげつない生体実験が大好きな変態で性的不能者。ひよろながの博士風。デビルコアの真実を知りながらビッグセブンの首領ビッグファーザーを騙していた。デビルコアのエネルギー源にするために子供たちを集めて血を搾り取っていた。サロメ博士の論文の数少ない理解者だが、その成果を細菌兵器の開発に使っていた。ビッグセブンを舞台とした冒険（GS第19話第一作戦『水上楼閣の財宝』）でホオヅキの冒険者達に捕縛されたが、最終的にはホオヅキの冒険者と和解したビッグファーザーの手に引き渡され、以後の人生を贖罪に費やすはずだった。彼の技術で事件後に錬金術と薬学が長足の進歩を遂げた。今回、骨竜帝モトのところに行くために、たくさんの実験体を率いて華麗に再登場して、一行に休戦と王の船に乗せてアルマーヤ海峡を越えさせることを要求した。狭い世界で満足しては知識を持っていてもすぐに萎むから、知識を与えられた下等動物を脱却するためにも世界の枠を超えて知識を求めららしい。まんまとモトの居城に到達した彼は、求めていた知識に触れていてご満悦。この世界にもう用はないと思い、異世界に転生するために拳銃自殺を遂げた。</p>
<p><b>テレサ</b></p>	<p>ビッグセブンを脱出したエーゲッツに人質にされていた。マルスでは人望があったらしい。キャロリーメイト生活に嫌気が差していたようだ。この世界をあるべき姿から歪めてしまった人間の入植が罪なのかどうかを世界の始まりから探求し続けている。結論はまだ出ていないが、天秤の遺跡にいた別のテレサたちは罪だったと口を揃えているというが、【このテレサ】は罪だとは思わないと語った。デバイスリフレクターの衝撃画像を見ても平然としている。実はモトのことやレッドキャップの事情をけっこう詳しく知っていた。</p>
<p><b>マチルダ</b></p>	<p>王の船の疑似人格UI。声だけではコミュニケーションに支障があると判断して王の船が有機物を合成して人体のようなものを作った。王の船はネバーランドからホオヅキへと譲渡され、新たな戦艦ホオヅキの中核となった。</p>
<p><b>エリ</b></p>	<p>（第一次）惑星調査団の一員。ナナミ・エリ。デバイスリフレクターに覆われた赤い世界だった惑星を人類が住めるようにした。高度12300mから身投げをしたが遺体は見つかっていない。甘い物好きでTRPG好きで世界史マニアで大雑把で細かいことを気にしないが凹むと部屋から三日は出てこない。地球に置いてきた恋人『マサオミ』の話をよくしていたらしい。実は女海賊Aにそっくり。</p>
<p><b>女海賊A</b></p>	<p>ホオヅキのモブ（？）海賊。誰も本名は知らない。ナナミ・エリにそっくりだがエリとの関係は不明。</p>
<p><b>ファイサリス</b></p>	<p>ホオヅキの船長。本名は『マサオミ』らしいが…？</p>
<p><b>リセット</b></p>	<p>世界の調停者。辻褃合わせをする泡。歴史が改変されたり、冒険者がある程度以上強くなるとそれを差し戻しに来る。</p>

<p><b>マゼンダ</b></p>	<p>ゴブリン帝国の前皇帝。皇帝クリムゾンアイの弟。現在はモトの呪いによって滅ぼされている。</p> <p>悪い人物ではないが、芸術を愛し、ゴブリン帝国の臣民は生真面目すぎるから、もっと自由に生きるべきだと、娯楽や奔放な生き方を推奨し、芸術や劇団への投資をした。</p> <p>クリムゾンアイほどの叡智を持っているわけではないので、説明をされた妖魔の置かれた閉塞を理解できず（分かっていたとしても理解したくなかった?）、夢を求めることを諦めきれていなかった。兄に対しては反発していたので、兄の不在が原因で絶望する要素はないはず。</p> <p>クリムゾンアイがヴォルケイノ戦役に出陣する時に船に学徒動員兵を乗せたことや兄ともっと話をすればよかったと悔いていた。骨竜帝が異界を作るときに材料にされてしまったが、モトが滅びて戻りの雨が降った結果、復活したらしい。</p>
<p><b>クリムゾンアイ (紅眼)</b></p>	<p>ゴブリン帝国皇帝。赤竜皇帝ヴォルケイノが魔法王国マレーンで起こした戦にゴブリン帝国を率いて参戦。冒険者が使った奥義をその場でラーニングして使ってみせたり、学徒動員されたゴブリン兵士を使った多彩な戦術により、レベルが高いはずの冒険者達や人間側の軍を苦しめた。当時、少人数で行動している時にホオゾキの冒険者によって発見され、撤退するところをマール単独による追撃を受け捕虜となった。ガチ勢の残した暗号を解読できる人物で異界攻略のキーパーソン。</p> <p>骨竜帝モトに叡智を与えられたレッドキャップの侵攻に対抗し全てのゴブリンを救うためにアルマーヤへと向かい、モトよりアルマーヤの神秘を授けられてヒトや竜を越える叡智を得た。その叡智により妖魔の置かれた閉塞的な状況を理解し、ゴブリンにケダモノのような生活をせず寄生虫化もさせないように歪で厳しいゴブリン帝国を建国した。本人は既に夢を放棄しているようだ。ただし、有給休暇の取得は奨励していたらしい。</p> <p>マレーンの大規模収容施設【黒星】の地下第七層の牢から救出された彼だが、一行に自分を化け物として扱うように言い、周囲を安心させるために敢えて手枷足枷をつけたままにするように希望した。今の愛読酒はバイブル。</p> <p>映画館から救出されたアトムにゴブリンの閉塞を破れる可能性を見出して、シンシアを取り戻すための黄泉比良坂への旅を命じた。</p> <p>ヴォルケイノ戦役当時、精鋭軍団を敢えて国防のために本土に残して行ったが、これが皇弟マゼンダの悔いに繋がった。マゼンダを異界の材料とされたことに激昂した。マゼンダを救う機会があると分かり、何らかの決意をしたようだ。</p> <p>骨竜帝モトの一件が解決した後で、ネバーランドの子供たちと接触したのか、ネバーランドへの戦力的不干渉を約束した。</p>

## 鉄壁防御・超英雄P・ステータスバフ可否リスト

キャラ名	鉄壁防御	超英雄P	STバフ
アグリッパ	ギャングスタータフネス	0	可
アリーヤ	ためになる話(教訓1)・教訓2・教訓3・ディメンションスリップ・予備の命	0/2	可
セフィ	パワーシーク(弱)・プロテクションフロムアイギス・クレイジーラッシュ	0/2	可
ソニア	ハイプリースト奥義各種	0	可
ディル	ピンポイントバリア・ホワイトダンス・禁后・栄光の凱歌・予備の命	2/3	装備次第
ノーウェン	ディメンションスリップ・真剣・竜の鉄壁	0/4	装備次第
マサヨシ	愛は無敵	0/3	可
マール	忍法空蟬天舞・愛は無敵	1/3	不可
ミレイユ	パーミッション・プロテクションフロムアイギス	4/6	不可
ルルカ	パーミッション・プロテクションフロムアイギス	0	可

## 入手アイテム

地図	アルマーヤの地図。戻ったらマルスで返却。(返却済)
仮面	レッドキャップの老翁の仮面。普通。三枚ある。(ミレイユが所持)
ククーリ	ククリ刀によく似た形状をしている短剣。重心が先端によっており、振り下ろす際に大きな衝撃を相手に与える。しかしそれは鑄造した武器ではなく、抜け落ちたレッドキャップの巨大な牙を武器に加工したもののようだ。重さ15 ベース25 片手剣 振り/切り 魔法の武器ではない。材質：牙(ディルが三本、マールが二本所持)
吹き矢	レッドキャップの装備品。(ディルが三本、マールが四本所持)
羽矢	レッドキャップの装備品。(マールが20本所持)
遺髪	レッドキャップに獲物にされた女性の死体から回収。(セフィが所持していたが、一旦ピーターに渡し、最終的にウェンディ復活の源となった)
鉤爪	重さ10 ベース30 オリハルコン製。登攀に+3の補正。双剣として扱う。両手に装備して2回攻撃可能。腕に装備するために、装備しながら別に武器を持つことが出来る。名前は存在しない。命中・ダメージ+2。(マールが所持)
リターン・ガラリイ	リターン・ガラリイ(ガリラヤに帰れ)：失われた神の術。大神聖祈祷。半径100mの軍団を本拠地に移送する。(対象)選別可能。消費20TP(固定)。範囲内の任意のキャラクター、物品、全てを転送する。(荷馬車や戦利品なども輸送できる。スクロールを破けば使用できるが、ハイプリースト・ダークビショップ・双子神殿のプリーストのみスクロールを呼んで習得することができる。大魔法扱いなのでスロットを占有する。一行の誰かが使うと、ホオゾキへ、フックやピーターが使えばネバーランド砦へ帰還することになるようだ)(セフィが所持。フックに渡した分は使用済)
太極図	究極の七大宝貝の一つと言われている伝説の宝貝。太上老君が封神されてからは行方不明になっていた。陰陽の太極から、四象、八卦に至るまで、この世のあらゆる理が記されている究極の図面。あまりにも巨大すぎるために非常に扱いが難しい。効果：術者から周囲1mをアンチマナエリアに変化させる。(術者のMIも太極図以外は全て魔力が消える)指定した20m以内の地点の半径1mに、あらゆる魔力に+2のボーナスを与える結界を張る。展開中、自身に受けたあらゆる魔法攻撃(ドラゴンプレスも含む)を五つまでストックし、自身の手番にその魔力に+2上乗せした状態で同じ術を任意の相手に打ち放つ。(これはA行動だが1ターンに全部打ち返しても、別のターンに分けて打ち返しても良い)展開するために2ターンかかり、展開した後は2ターンに1度しか動くことが出来ない。(行動不能ターン中には抵抗以外一切できない。回避も不可)使用すると一回の戦闘(戦闘継続ターンに制限は無い)につき、寿命が一年短くなる。使用してもTPは消費しない。ネフィリウム。(マサヨシが保有)
生命の腕輪	即死攻撃、即死魔術を一度防ぐ。もしくは生死判定の失敗を一度だけ成功に変える。使い捨て。標準取引価格50000セレン。アグリッパ、アリーヤ、ソニア、マサヨシ、マール、ミレイユが一個ずつ所持。
情熱のネックレス	生命力マイナスの状態から、一度だけHP5まで回復する。発動は任意。使い捨て。標準取引価格20000セレン。ディル、リオ、ノーウェンが一個ずつ所持。

静謐のチョコラー	TP0で昏倒の状態から、一度だけTP5の状態まで回復する。これは肉体的、精神的どちらの状態のTP枯渇にも対応する。使い捨て。標準取引価格20000セレン。セフィ、フォルトゥナ、ルルカが一個ずつ所持。
魔唱石	20点魔唱石。標準取引価格50000セレン。アグリッパ、アリーヤ、ソニア、ディル、マサヨシ、マールが一個ずつ所持。
炎の魔唱石	15点魔唱石で、炎系の魔術をこの魔唱石で用いた場合、魔力+2の効果がある。標準取引価格60000セレン。リオ、ノーウェン、ミレイユが一個ずつ所持。
静謐の魔唱石	15点魔唱石で、精神作用系の魔術をこの魔唱石で用いた場合、魔力+2の効果がある。標準取引価格60000セレン。セフィが一個所持。
死者の魔唱石	15点魔唱石で、ネクロマンシー系の魔術をこの魔唱石で用いた場合、魔力+4の効果がある。標準取引価格100000セレン。フォルトゥナが一個所持。
没頭の魔唱石	12点魔唱石で、アルケミストの薬品製造をこの魔唱石の魔力で行った場合、達成値に+6の効果がある。標準取引価格100000セレン。ルルカが一個所持。
ゾルトラーク	呪文書。古代の貫通系魔術。とある魔界貴族が使ったとされる。あらゆる防御術式を貫通するために防ぎようがないと言われた人を殺す魔法。後に多くの魔術師によって研究され、この術を防ぐための術式【リフレックス】が開発された。ベース20、無属性で貫通作用があり、20mまでの直線状に並んでいるすべての対象にダメージを与える。あらゆる阻害系、鉄壁防御系の術を無視する。リフレックスでのみ反射することが出来る。精神消費12 ソーサリーLv3以上で習得可能。対人/放出範囲/複数/無差別/純魔力。(アビリティスロット二つ占有) 標準取引価格500000セレン。アリーヤ、ソニアが一巻ずつ所持。
コメットストーム	呪文書。半径50m以内に隕石群を降らせる魔法。術者も巻き込まれる為に欠陥魔法として闇の中に葬られた。後にこの魔術が改良されてメテオス ウォームが完成した。術者より半径50m (術者含む)、遮蔽無視、庇う等無効、切り払い可、ベース70 TP10消費(固定) 大魔法 複合/特殊/複数/無差別/純魔力/大規模級 ソーサラーLv6以上で習得可能。大魔法扱い。(必殺技スロット一つ占有) 標準取引価格500000セレン。リオが一巻所持。
口伝・疾風	奥義書。半径10m以内の全ての対象に通常攻撃を行う。習得にはファイターLv6以上が必要。TP3消費(固定)。1日1度まで使用可能。対人/放射範囲/複数/無差別 必殺技扱い。(必殺技スロット一つ占有) 標準取引価格500000セレン。アグリッパ、マールが一巻ずつ所持。
口伝・血操	奥義書。流した血を刃に変える。最大生命力を消費して武器を作り出す。最大HP1点につきベース10、射程50cm。HP1点を消費し、命中+1orダメージ+1を付与。HP5点を消費し、クリティカル-1を付与する。武器の形状は自由だが、ベースや命中は変わらない。攻撃方法は振り/突き、斬り/叩きから自由に選択可能。持続時間は2時間。消費した最大HPは1日に1点ずつ回復していく。アビリティスロット二つ占有。標準取引価格500000セレン。フォルトゥナ、ノーウェンが一巻ずつ所持。
秘伝・調合	薬品調合の秘伝書。習得すると薬品製造の達成値を永久に+1する。パッシブスキルでスロット不要。標準取引価格500000セレン。セフィ、ルルカが一巻ずつ所持。

秘伝・調理	調理の秘伝書。習得すると調理、及び製菓の達成値をを永久に+2底上げる。パッシブスキルでスロット不要。標準取引価格500000セレン。ディル、マサヨシが一巻ずつ所持。
服従の天秤	抵抗に失敗したパペットゴーレム、及び魔法生命体（天使・ホムンクルス含む）、もしくは意思の無いアンデッド、死体、人形を服従させる術。服従対象は1体で自由に操ることが出来る。効果は1日。死体に用いた場合生前の能力を使用可能(肉体技のみ)。ドールマスターの源流とも言われる人形術。TP12消費（削減可）ソーサラーLv3以上で習得可能。アビリティスロット一つ占有。複合/指名/単体/選別 標準取引価格500000セレン。ミレイユが一巻所持。
命のポーション	（「生命力」の値まで）生命力を20点回復する。使い捨て。標準取引価格8000セレン。アグリッパ、ディル、ノーウェンが一個ずつ所持。
魔力のポーション	（「精神力」の値まで）魔力を20点回復する。使い捨て。標準取引価格10000セレン。セフィ、フォルトゥナが一個ずつ所持。
英雄の秘薬	飲むと1戦闘中あらゆる判定に+1がつくポーション。使い捨て。標準取引価格20000セレン。マサヨシ、マールが一個ずつ所持。
覚醒の目薬	目にさすと、24時間、「闇視」、望遠視力（1kmまで物が細かく見える）、六芒眼の効果を得る目薬。使い捨て。標準取引価格15000セレン。アリーヤ、ミレイユが一個ずつ所持。
不死の塗り薬	体に塗ると、任意で1度まで受けたダメージを0点にすることが出来る塗り薬。体中に塗るのに10分かかる。塗ってから24時間有効。使い捨て。標準取引価格15000セレン。ソニア、リオ、ルルカが一個ずつ所持。
命の水	人形、及び人型をした物に命を与える幻の秘薬。ドール、死体をパペットゴーレム化する。七歳児程度に命令を聞き分ける。レベルは主人に合わせり、ドールの場合能力値ボーナスは全て3、死体の場合は生前の能力値として扱う。標準取引価格50000セレン。セフィ、ルルカが一個ずつ所持。
若返りの薬	年齢が5歳若返る。標準取引価格600000セレン。ディル、マサヨシが一個ずつ所持。
ラストエリクシャー	錬金術のページの記載通り。標準取引価格200000セレン。0個。（使用済）
転生の薬	飲むと死ぬ。但しスキル、能力値（種族限界を超えていても保持）、記憶を保持したまま、10年後に出自の全く違う別人として転生する。種族は元々の種族になる。アンデッドや異形化した存在もアンデッド化または異形化により獲得した能力を失って元々の種族に戻る。（詳細は深海の蒼光 2021/3/26 0:20~1:11のログによる）標準取引価格200000セレン。アグリッパが一個所持。（ノーウェンが持っていた分は使用済）「生まれたことのない」または「絶滅種など母体が存在しない」生物が呑むと、死ぬだけで効果が得られない。
バビロンの盃	あらゆる生命を受肉させる薬。魔法生命体がこれを飲み干すと、種族能力を保持したまま、種族が「人間」に変更される。年齢は見た目に準拠。（ホムンクルスは10歳、天使は15歳など）標準取引価格1000000セレン（青天井）フォルトゥナ、ミレイユが一個ずつ所持。

テレパシーエキス	非常に美味しい酒。分け合って飲むと、分け合って飲んだ相手と、一日の間、念話をおこなえるようになる。念話の内容は分け合った全員に聞こえる。標準取引価格30000セレン。アリーヤ、ソニアが一個ずつ所持。 (マールの分は使用済)
オリハルコンチェーン	オリハルコンのチェーンメール。重さ10、ベース30、鎧補正はチェーンメールと同じ。ダメージ-2。ちゃらちゃら音がしない。(ディルとノーウェンが借用。返却済)
オリハルコンメッシュ	重さ1 ベース15 布属性、クリティカル値が金属鎧として変動 ダメージ-1 術式理解+1 (マジックユーザー系共通) (ソニアが借用)
オリハルコンの矢筒	中から魔法の矢が出てくる矢筒。命中・ダメージ+1、オリハルコンの矢じりがついている。矢は無限に出てくる。使い捨て。(ミレイユが借用)
オリハルコンの盾	命中ペナルティ無し、回避+1のラージシールド。重さ1。(リオが借用)
剣	片手剣 重さ10 ベース30 突き/刺し 振り/切り 命中・ダメージ+2 オリハルコン製 (ルルカが借用)
研究論文	新型インフルエンザについてのマチルダの作成した報告書。(ミレイユが写本をサロメとドロシーとリリーナに提出した)
レシピ	エーゲッツからマチルダを経由して入手したキャロリーメイトのレシピ。(ディルが所持)
財宝	モトの居城にあった。いかにもお金になりそう。ディルが持ち帰ろうとして失敗した。(クリムゾンアイが重さ1あたり5000セレンで買い取るはずだった)
本	モトの居城にあった異世界の知識。持ち帰れたのは以下の通り。(クリムゾンアイが重さ1あたり10000セレンで買い取る。ホオヅキに提出すると闇に葬られる) アグリッパ：重さ50、アリーヤ：重さ10、フォルトゥナ：重さ10、リオ：重さ160、ノーウェン：重さ30、マサヨシ：重さ60、マール：重さ50、ミレイユ：重さ30、ルルカ：重さ50